

平成25年度 事業報告

・ 法人本部	1
・ 航	6
・ 地域支援室	16
・ 金沢地域活動ホームりんごの森	24
・ 横浜市釜利谷地域ケアプラザ	32
・ 横浜市柳町地域ケアプラザ	42

平成25年度すみなす会事業報告

すみなす会は、誰もが年齢や障害等に関係なく自主的に地域で、街の中で安心して自分らしく暮らし、住むことを実現する、このことを理念として事業運営にあたっている。

今年度も障害部門及び地域ケアプラザ部門ともこうした理念のもとに事業を進めてきた。

I 障害部門

障害部門においては、在宅障害者への地域支援と航入所利用者の地域移行をさらに充実、推進するべく事業を実施してきた。

1 地域支援室の設置

従来『航』の一部門であった地域支援部を更に事業充実・拡充を図る為『地域支援室』として独立し、8月に能見台通りに事業推進の拠点として『地域支援センター』を開設し、以下の新規事業を開始した。

- ①指定特定相談支援事業(計画相談)
- ②居宅介護事業・重度訪問介護事業・横浜市障害者移動支援事業
- ③障害者後見的支援事業
- ④車いす対応型ケアホーム(グループホーム)『灯(あかり)』(11か所目)

2 地域生活支援について

いろいろな課題を抱えてきた『りんごの森』が24年度から大幅に改善され25年度も引き続きニーズに寄り添った事業の推進に努めた結果、今まで利用していなかった方々にも認知され、『一時ケア』は利用者222件/年、1068時間/年の増加実績を上げることができた。

入所施設である『航』においては利用者の地域移行を推進するためグループホームへの移行をスムーズに行えるよう努めてきた結果、ケアホーム(グループホーム)『灯(あかり)』開所に向け3名の移行準備を進めた。

また、生活介護事業においては、法定の超過利用者数の上限に迫る利用者76名を受け入れ、生活介護事業所の分室においてはケアホーム(グループホーム)『灯(あかり)』の隣接地に開所すべく準備が進んでいる。(26年10月予定)

3 医療的ケア

『航』施設入所利用者の障害程度区分は、最重度(障害程度区分6及び5)の利用者が全体の93%、平均障害程度区分は24年度5.76から25年度は5.8に上がりより重度の利用者受け入れを図っている。

年々増加する医療的ケアを必要とする利用者に対応するため、今年度新たに『航』7

名、『りんごの森』1名が資格を取得し、合わせて30名の職員（航23名、地域支援室2名、りんごの森5名）が有資格者となり医療的ケアの充実がさらに図られた。

4 その他

- ①利用者家族等との信頼関係の構築を図る為、『航』、『りんごの森』で家族懇談会を開催しているが、さらに信頼関係を深めるため、25年度から利用者家族等と日中活動(生活介護)職員との懇談会(生活介護相談会)を開始し率直な意見交換を行うことができた。
- ②『航』『りんごの森』においては今まで『すみなすフェスタ』、『感謝祭』、地域の祭りなどのイベントへの参加等を通じ、地域の方々との交流を深めることができた。また、『航』においては白山町道町内会の協力を得て大規模地震を想定した避難誘導訓練を25年度も実施して身近な施設により一歩近づけた。

II 地域ケアプラザ部門

地域ケアプラザは、地域の福祉・保健活動拠点としての位置づけに基づき、地域活動交流、地域包括支援センター等の事業を通じて地域の福祉活動、保健活動の振興を図った。事業の執行に当たっては、地域の福祉団体、自治会・町内会、民生委員などとの連携を深め協働して取り組んだ。

1. 地域活動・交流事業

地域の福祉保健活動推進のため各地域ケアプラザでは個性的、様々なイベントなどを通じてその推進を図っており、釜利谷地域ケアプラザでは

- ①高齢者の体操教室に夏休み中の個別支援学級・養護学校に通う生徒をコーディネーターのアシスタントとして受け入れ、交流の場、障害の理解拡大に努めた。
- ②障害児を対象としてアメリカ人講師による文化交流会(ハロウィン、イースター)を企画し交流、コミュニケーションの増進に努めた。

柳町ケアプラザでは、

- ①毎月定例的に障害児者余暇支援活動『おひさま広場』、学童対象の『レゴパーク』事業などを実施して地域福祉の推進を図るとともに施設の更なる認知を図った。
- ②記念フェスタでは地域の方にフリーマーケットでの参加を促すとともに東北震災支援ブースを設けて支援の輪を広げた。

2. 地域包括支援センター事業

4職種が連携し、地域の出張相談会、自治会・町内会の会合への出席などを通じて地域における支えあい、地域づくりが円滑に進められるよう取り組むとともに地域の情報を収集し、個別支援につなげる活動を行った。

また、昨今の社会事情を反映して、成年後見制度、訪問販売等の被害、オレオレ詐

欺、高齢者虐待などの相談が増加しており、警察など関係機関連携のもと被害防止のためチラシなどを作成し、町内会出張講座などを活用して被害防止を図った。

3. デイサービス事業

地域で生活する要支援、要介護の高齢者を対象に日常生活動作の維持改善や生活の質の向上を目的として利用者の身体機能の低下を防ぐためのプログラムやレクレーション、イベントなど様々な取り組みをしているが、要介護3の利用者が減員になったことにより収益が減少した。

一方認知症利用者の増加が顕著であったので、実績のある『柳町ケアプラザ』が所管して認知症対応型通所介護事業所『やまゆり』を25年6月に開所し、着実な成果を上げており地域福祉の推進が図れた。

Ⅲ 法人事務局

1 理事会・評議員会の開催

(1) 理事会

- ・第1回理事会 平成25年5月30日
第1号議案 評議員の選任(案)

- ・第2回理事会 平成25年5月30日
第1号議案 平成24年度事業報告(案)
第2号議案 平成24年度決算(案)
第3号議案 平成25年度第一次補正予算(案)
第4号議案 規程の改正(案)
第5号議案 理事の選任の同意について(案)

- ・第3回理事会 平成25年9月20日
第1号議案 障害者支援施設「航」空調整備改修工事に係る
指名競争入札の業者選定等

- ・第4回理事会 平成25年11月22日
第1号議案 平成25年度上半期事業報告(案)
第2号議案 平成25年度第二次補正予算(案)
第3号議案 規程の改正(案)
第4号議案 評議員の選任(案)

- ・第5回理事会 平成26年3月28日

- 第1号議案 平成25年度第三次補正予算（案）
- 第2号議案 平成26年度事業計画（案）
- 第3号議案 平成26年度予算（案）
- 第4号議案 理事長辞任の申し出について（案）
- 第5号議案 理事選任の同意について（案）
- 第6号議案 事務局長の採用について（案）
- 第7号議案 定款変更（案）
- 第8号議案 規程改正（案）
 - ・就業規則の改定
 - ・嘱託及び非常勤職員就業規則の改正
 - ・登録ヘルパー就業規則の改正
 - ・事務分掌規程の制定
 - ・事務決裁規程の制定
 - ・経理規程の改正
 - ・印章規程の改正

（2）評議員会

- ・第1回評議員会 平成25年5月30日
 - 第1号議案 平成24年度事業報告（案）
 - 第2号議案 平成24年度決算（案）
 - 第3号議案 平成25年度第一次補正予算（案）
 - 第4号議案 規程の改正（案）
 - 第5号議案 理事の選任（案）

- ・第2回評議員会 平成25年11月22日
 - 第1号議案 平成25年度上半期事業報告（案）
 - 第2号議案 平成25年度第二次補正予算（案）
 - 第3号議案 規程の改正（案）

- ・第3回評議員会 平成26年3月28日
 - 第1号議案 平成25年度第三次補正予算（案）
 - 第2号議案 平成26年度事業計画（案）
 - 第3号議案 平成26年度予算（案）
 - 第4号議案 理事の選任について（案）
 - 第5号議案 事務局長の採用について（案）
 - 第6号議案 定款変更（案）
 - 第7号議案 規程改正（案）

- 就業規則の改定
- 嘱託及び非常勤職員就業規則の改正
- 登録ヘルパー就業規則の改正
- 事務分掌規程の制定
- 事務決裁規程の制定
- 経理規程の改正
- 印章規程の改正

2 すみなすフェスタ・すみなすフェスタりんごの森感謝祭について

航・釜利谷地域ケアプラザでは平成 25 年 6 月 2 日に、りんごの森では 9 月 7 日に、柳町地域ケアプラザでは 11 月 9 日に感謝祭を開催した。

それぞれの地域で毎年恒例の行事として定着し、たくさんの方々が来場され、お祭りに楽しんで参加していただいた。

3 職員の状況

(1) 常勤職員数

	年度当初	退職者	中途採用者	内部異動者	年度末
航	45	4	2	0	43
地域支援室	23	2	1	0	22
りんごの森	21	2	1	0	20
釜利谷地域ケアプラザ	12	1	1	0	12
柳町地域ケアプラザ	14	2	3	0	15
計	115	11	8		112

(2) 非常勤職員数（含嘱託職員）

	年度当初	退職者	中途採用者	内部異動者	年度末
航	37	9	14	0	42
地域支援室	39	13	11	0	37
りんごの森	27	1	3	0	29
釜利谷地域ケアプラザ	41	2	2	0	41
柳町地域ケアプラザ	33	7	16	0	42
計	177	32	46		191

平成 25 年度 航 事業報告

概説

航は開設以来、地域で生活する障害者や家族等の拠点施設として利用者ニーズに応えるべく、短期入所事業や生活介護（日中活動）事業等の拡充を進めてきた。また施設入所事業については、利用者への徹底した個別支援の推進により、きめ細かいサービス提供の向上に努め、グループホームへ地域移行についても円滑な実施に努めてきた。

本年度事業については、これまでの地域支援の方向性を踏襲しつつ、航中長期目標（平成 25 年度～平成 34 年度）との整合性も考慮しながら概ね順調に推進し、一定の成果を上げることができた。

1 本年度重点事業の推進状況について

(1) 日中活動事業所（生活介護事業）の新設について

本年度事業で予定していた日中活動事業所の新設については、土地所有者等との調整により、同一敷地内において先行して施工したグループホーム灯（平成 26 年 3 月 31 日竣工）の竣工後に、引き続き工事（土地所有者施工）を行うこととなったため、竣工時期が平成 26 年度にずれ込むことになった。（平成 26 年度事業計画に再計上済み）

※新設の日中活動事業所

- ・定員 20 名
- ・所在地 金沢区釜利谷東 2 丁目
- ・竣工予定及び事業開始予定 平成 26 年 10 月初旬

(2) 医療的ケアの必要な入所利用者への対応について

航では医療的ケア（経管栄養、痰の吸引）の必要な 2 名の入所利用者に対して、資格を取得した職員及び看護師が対応しているが、本年度は新たに 7 名の職員が資格を取得して医療的ケア体制の拡充を図った。

一方で、高齢化や身体機能の低下等により、航の医療的ケアでは対処が難しくなっている利用者や、新たに医療的ケアが必要となる利用者への適切な対応を図るため、医療機関との緊密な連携やご家族等との相談等を適宜行っている。

※医療的ケア資格取得者数 23 名（本年度 7 名含む）

(3) ユニットのバリアフリー化について

航のユニットは開設当初からバリアフリー化構造となっているが、最近では高齢化等による利用者の身体状況の変化等に的確に対応する必要性が生じている。そのため、本年度は B ユニット内トイレを一部改修し、重心利用者や車椅子を使用する利用者に必要な多

目的トイレ 1 か所を設置した。

(4) 金沢区内法人等との連携強化について（関係事業所等WG）

前年度に航が金沢区内障害者施設等に呼びかけて実現した関係事業所等WGは、利用者ニーズに基づいた日中活動の場の拡大の方策、法人等が連携して行う活動（作品の共同化、人材育成、人権研修、災害等への取組み）等について幅広く建設的な意見交換を行った。今後も連携協力の具体化に向けた活発な意見交換を継続して行っていきたい。

※参加法人事業所 すみなす会（航、りんごの森）、やまびこの里（ボルト能見台）、こんちえと、（シーサイド、金沢福祉センター、つばさ作業所）、聖星学園、金沢養護学校

(5) 航職員研修

職員の人材育成の観点から、職員のキャリア（新任、中堅）ごとに資質能力の更なる向上を目指して職員を外部研修や内部研修に参加させた。また、主任クラスの職員には「応急救命普及員」の資格を取得させて、航職員全員を対象に普通救命研修を実施した。

その他、医療的ケア資格取得研修や、航職員全員を対象としたメンタルタフネス研修、人権啓発研修等、幅広い研修に職員を数多く参加させ、職員の資質能力、専門性の向上、課題解決能力の向上等に努めた。（詳細説明 13、14 ページ参照）

(6) 利用者家族等との信頼関係の増進

航では利用者家族等との相互理解と信頼関係をいっそう深めていくため、平成 20 年度から行っている利用者家族等と、各ユニット職員との懇談会（ユニット懇談会）、管理職との懇談会（管理職懇談会）を実施したほか、本年度から新たに利用者家族等と日中活動（生活介護）職員との懇談会（生活介護懇談会）も実施し、信頼関係の増進に努めた。

また毎年 12 月には、利用者、家族等、職員が一堂に会して行うクリスマス会を盛大に実施して関係者による懇親を深めた。

(7) 地域社会との良好な関係づくりの推進

本年度も白山道町内会の協力を得て、大規模地震を想定した避難誘導訓練を実施した。また、すみなすフェスタを始め、町内会主催の夏祭り（お神輿・盆踊り）やみかん狩り等で、航利用者や職員と町内会の方々との活発な交流を深めることができた。今後も白山道町内会や地域の方々との交流を深めながら、利用者が地域社会で生き生きと普通に暮らせる環境づくりに努めていきたい。

2 平成25年度 航 事業活動収支決算概要活動収支総括表（単位：円）

	25年度	備考
自立支援給付費収益	385,602,507	生活介護、入所、短期入所（国）
その他の事業収益	45,651,579	自立生活移行支援助成金（市）
サービス活動収益計（A）	431,254,086	
人件費	338,738,775	常勤、嘱託、非常勤職員
事業費	61,299,441	電気料金値上げ・光熱水費実行増
事務費	46,093,332	
減価償却費	31,856,507	
国庫補助金取崩額	△27,072,108	
サービス活動費用計（B）	450,915,947	
収支差額（A-B=C）	△19,661,861	
サービス活動外収益（D）	6,936,435	
サービス活動外費用	0	
サービス活動外増減差額（D-E=F）	6,936,435	
経常増減差額（C-F）	△12,725,426	

3 事業別報告（平成26年3月31日現在）

	事業名	定員数(人)	現員数(人)	備考
国事業	施設入所支援	50	41（注1）	入所利用枠の8床分は短期入所利用分として活用
国事業	生活介護事業	60	76（注2）	{内訳} 施設入所利用者41名、ケアホーム利用者18名、短期入所利用者6名、在宅利用者11名
国事業	短期入所事業	4	12（注3）	{内訳} 短期（定員）4床+入所枠から8床の計12床分を短期入所の利用枠として運営した
横浜市	日中一時支援事業	若干名	若干名	

（注1）施設入所の利用者が2月に肺炎により逝去されたため、現員の施設入所利用者数は41人。

（注2）生活介護事業の定員は60人に対して、法定の超過枠（概ね75人まで可）に達している。現員の生活介護利用者数は76人。

・利用者 76 人の内訳は、①施設入所利用者が 41 人、②ケアホーム利用者が 18 人、③短期入所利用者 6 人、④在宅の利用者 11 人。

(注 3) 本来の短期入所事業の定員は 4 人であるが、施設入所利用枠 8 人分を短期入所の利用に転用し、短期入所事業を 12 人の利用枠で受け入れを行っている。

4 利用者状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

①施設入所支援

() 前年度実績

年齢階層 (歳)	利用者 (人)			肢体不自由 (人)	自閉 (人)	発作 (人)	障害区分			
	総数	男	女				区分 6	区分 5	区分 4	区分 3
20～29	3	2	1	0	2	1	3	0	0	0
30～39	12	8	4	3	6	7	10	1	1	0
40～49	19	14	5	4	8	9	17	0	2	0
50～59	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0
60 以上	6	4	2	4	0	2	5	1	0	0
総数	41	28	13	11	16	20	36 (35)	2 (4)	3 (3)	0 (0)
平均年齢	43.3 歳						88%	5%	7%	0%

*利用者の平均年齢は、43.3 歳、前年度は 43.1 歳。

*利用者の男女比は、男性 68%、女性 32%。

*利用者の障害程度区分は、最重度（障害程度区分 6 及び 5）の利用者が全体の 93%。

*利用者は、知的障害に加え、肢体不自由（26%）、自閉症（39%）、発作などの合併症（49%）がある。

○施設入所利用者の平均障害程度区分は前年度 5.76 から本年度 5.8 に上がった。

これは、利用者の高齢等に伴う身体能力の低下等が要因となっている。

○「ユニット懇談会」は副主任やリーダー等が進行し、各利用者の日常の様子をまとめたアルバムをご家族全員へお渡しし、大変喜ばれた。懇談の際は、利用者の日常の様子や旅行等の様子等を映像で紹介しながら、ご家族と有意義な意見交換を行うことができた。

○ユニット及び日中活動の余暇活動では、利用者の意向に沿った余暇を企画した。余暇の内容としては、外食、買物、観光（ソレイユの丘、東京タワー）等への観光、カラオケ、調理等多様なプログラムを実施し、合計 509 件の実績となった。また、ユニットでの余暇は、誕生会を利用者の誕生日ごとに実施し、入居者同士でお祝いするなど、親睦を深めることができた。

○本年度もユニットごとに、小グループでの「宿泊旅行」を行ったが、予めご本人・ご家族から、①日帰り旅行、②近場の一泊旅行、③遠方の一泊旅行から一つを選択できるよう

にしたほか、行先についても、①遊園地、②温泉、③牧場等から選択できるようにし、利用者の皆さんの希望に添った旅行ができるようにした。

なお、本年度は、「京都の東映太秦映画村」や「栃木の東武ワールドスクエア」など全16回に分けて行った。

②生活介護事業（日中活動）

（ ）前年度実績

年齢階層	利用者（人）			肢体 不自由	自閉	発作	障害区分			
	総数	男	女				区分6	区分5	区分4	区分3
19以下	3	2	1	1	1	1	1	1	1	0
20～29	13	9	4	1	8	2	6	1	6	0
30～39	20	15	5	3	10	12	16	2	2	0
40～49	30	21	9	6	13	14	24	3	3	0
50～59	3	2	1	0	0	1	2	1	0	0
60以上	7	4	3	5	0	2	5	2	0	0
総数	76	53	23	16	32	32	54 (54)	10 (8)	12 (11)	0 (1)
平均年齢	39.4歳						71%	13%	16%	0%

○定員 60 名に対して、利用者数は 76 名。

○本年度は新規利用者計 3 名の受入れを行った。

（受入れ内容）

4月：男性2名（週3日と週5日利用）、女性1名（週5日利用）

○夏季休暇中の日中活動は、本年度は、8月10日（土）～14日（水）までの5日間を夏季休暇期間としたが、平日の12日～14日については、夏休みの行事を企画し、利用希望者に対して実施した。

（実施内容）

12日（月）午前：あんみつ作り、午後：ミニ縁日（かき氷・魚釣りゲーム）

13日（火）午前：クレープ作り、午後：吹奏楽団による演奏会

14日（水）午前：創作活動、午後：ミニ縁日（かき氷・魚釣りゲーム）

○日中活動懇談会の開催

11月9日（土）に、在宅の利用者およびグループホームで生活されている利用者のご家族を対象に初めて懇談会を実施した。常勤・嘱託職員、非常勤職員から、各活動班の紹介や日々の活動の様子を説明し意見交換をすることができた。

○降雪時の対応

2月8日（土）に大雪が降り、翌々日の月曜日になっても積雪や路面凍結箇所が多く残っていたことから、送迎困難と判断して日中活動を休みにした。また、同じ週の14日（金）

も昼以降に大雪となったが、13:00以降に送迎を開始して安全に帰宅できるように対応した。

ア) 稼働日数

○本年度の稼働日数は、月曜日～金曜日が263日（平成24年度262日）となった。クリスマス会などの行事等により、土曜日・日曜日も一部稼働した。

イ) 活動班・在籍者数

活動班名	羅針盤 外注班	和海 紙すき班	農耕 園芸班	リサイクル班	陶芸班	手工芸班	アソビ班	環境 整備班	計
利用者数	9人	11人	8人	9人	7人	13人	13人	6人	76人

○クリスマス会は前年度に引き続き、横浜テクノタワーホテルファミールで航利用者・家族、職員等多数参加して盛大に行われた。食事やイベントなど、ご家族、職員と一緒に楽しい1日を過ごすことができた。しかし、クリスマス会直前にCユニット内において、感染性胃腸炎と同様の症状を発症した利用者が現れたため、感染拡大を避けるためにCユニット利用者については、ユニットで過ごしてもらう対応を取った。

○利用者への工賃については、自主制作品の売り上げ等の収入から、材料費分を差し引いて利用者に配分した。これまで工賃の金額の基準が不明確であったことから、今年度より工賃規定を改定し、1人当たり月額1,000円を支給することとなった。また、各季の賞与については、個人の作品の売り上げ等に応じて一律に設定された賞与額に対して加算して支払う仕組みを設けた。夏季賞与2,160円～15,680円、冬季賞与1,370円～8,640円、期末賞与3,010円～24,670円が支給された。

③短期入所事業、横浜市日中一時支援事業

【平成25年度 短期入所事業 受入実績】

()は前年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ宿泊人数	43 (36)	39 (39)	40 (40)	48 (36)	50 (37)	50 (36)	
延べ宿泊日数	265 (247)	245 (274)	255 (271)	294 (277)	300 (276)	298 (269)	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ宿泊人数	51 (38)	50 (42)	47 (33)	37 (39)	43 (30)	52 (40)	550 (446)
延べ宿泊日数	319 (276)	303 (284)	282 (247)	277 (243)	273 (198)	303 (272)	3414 (3134)

○短期入所事業は、前年度に比して延べ利用日数で280日の増（延べ利用人数は前年度より104人増）。

*一人あたりの平均利用日数は 6.2 日

*利用最長日数 31 日/月、利用最短日数 2 日

*利用の主な理由

- 介護者の休息（レスパイト） 約 64%
- 介護者の社会的理由（出張、冠婚葬祭他） 約 25%
- 介護力の低下（介護者の入院等） 約 8%
- 利用者の体験利用（宿泊練習含む） 約 3%

【平成 25 年度 横浜市日中一時支援事業 受入実績】 () は前年度実績

延べ利用人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
4H未満	1 (1)	1 (0)	1 (2)	0 (1)	0 (0)	2 (1)		
4H-8H未満	0 (0)	1 (0)	0 (1)	1 (0)	2 (1)	2 (0)		
8H以上	0 (1)	1 (1)	1 (2)	0 (2)	2 (3)	1 (2)		
延べ利用人数	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総合計
4H未満	0 (0)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	11 (6)	38 (25)
4H-8H未満	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	14 (2)	
8H以上	1 (1)	1 (1)	2 (0)	1 (2)	1 (1)	2 (1)	13 (17)	

5 安全への配慮

(平成 25 年度 事故件数) () は前年度実績

①転倒	②誤与薬		③外傷		④所在不明		⑤誤嚥	⑥異食	⑦他害	⑧車両
	怠薬	落錠	通院あり	様子観察	施設外	施設内				
43 (39)	8 (9)	3 (5)	2 (9)	11 (5)	3 (4)	0 (0)	1 (1)	2 (3)	15 (9)	5 (2)
11 (14)		13 (14)		3 (4)						
93件 (86件)										

①転倒は、43件（前年度39件）で、前年度より4件増加した。これは利用者の高齢化等による機能低下及び向精神薬の副作用によるふらつきを起因としたものが多かった。職員の付添いが確実にできるようセンサーアラーム等の環境整備を行った。

②誤与薬の事故件数は11件（前年度14件）で、前年度より3件減少した。

③外傷件数は13件（前年度14件）で、前年度と同様に転倒による打撲等の外傷が多かった。

その為、柱などの角には緩衝剤を張り付けるなどの安全対策を随時行った。

④所在不明の件数は3件(前年度4件)だった。

⑤誤嚥は1cm大の柿の果肉を喉に詰まらせたことが1件あった。前年に引き続き各利用者の誤嚥事故防止の徹底を行うとともに、異物除去及び応急救命法の実施研修を行った。

⑥異食は2件

⑦他害行為は15件(前年度9件)で、前年度より6件増加した。

⑧車両事故は5件(前年度2件)だった。この内の1件は運転中に利用者が突然興奮したことに対し運転手が対応。前方確認が不十分になり他の車両に追突する事故があった。幸い相手側に怪我等は無く、破損した車両については自動車保険にて対応した。

*事故報告書については、軽微な事故でもすべて報告するよう義務づけており、施設長の決済を義務付けている。今後も事故防止の徹底に努めていきたい。

6 人材育成

○個々の職員のスキルの状況や、研修後の感想シートの結果等から研修ニーズの把握を行い、利用者支援に資する外部研修・内部研修の企画・実施に努めた。

○平成25年度も、現場の課題解決能力の向上やスキルアップ等に即した外部研修へ職員派遣を行った。派遣実績としては、13種類の外部研修に延べ25名の職員を派遣した。医療的ケア実務者研修については、不特定の者対象に1名、特定の者対象に6名を派遣した。

また、今年度の内部研修については、できる限り実際の支援場面を想定した実践に役立つ研修を多く取り入れるようにした。日々の支援場面を想定しながら検討することで、緊張感を持ったワークショップを行うことができた。実績としては14種類の研修に延べ360名の職員が参加した。

○年度末には、「私たちの3大ニュース～私たちの取り組んだこと～」の発表会を行い、各部署での実践の報告を行いながら、職員全体で航の支援の方向性を改めて確認した。そして、組織の一体感を高め、職員の主体的な取り組みを促し、今後研究発表会へと発展させていくことを目指した。

【平成 25 年度 内部研修実績】

平成25年度 航 内部研修実績						
	研修内容	主催	講師名	講師所属	会場	参加者数
4月	【新任職員研修】法人による研修（各施設長/所長）・見学会	航	事務局長・各施設長・両課課長	すみなす会		8
	『オリエンテーション』（課長補佐・主任）、『新任職員へ期待すること』（施設長）、『私たちの仕事で大切にしていること』（職員6名）、ワークショップ『わたしの行動目標を作ろう!』（課長、課長補佐、主任、職員5名）	航	施設長・部長・課長・課長補佐、主任、職員6名	航	多目的ホール	20
	【普通救命講習】応急手当（講義）・AED（実践）	航	応急手当普及員	航	多目的ホール	8
	【法人マナー研修】コミュニケーションスキル、電話対応と来客対応他	法人	岩井 昌江氏	Flight Plan	多目的ホール	8
6月	【外部研修報告会】『アサーションを駆使した褒め方・叱り方技術』／『接客マナーアドバンス講座』／『力のいらぬ介助術』／『介護記録の書き方と活用法』／『OJT基礎研修』／『リーダーのための実務研修』	航	課長・課長補佐・主任	航	航食堂	24
7月	【応急手当演習】 ・心肺蘇生法とAED ・気道異物の除去方法 ・溺水（水の事故）時の対応方法 ・止血法	航	課長・課長補佐・主任・看護師	航	航食堂	25
8月	【メンタルタフネス研修】	航	柳原 理恵子 氏	(株)ハートセラピー	多目的ホール	56
9月	【KYT演習】支援場面でのリスクを想定し、予防策を考えるワークショップ	航	課長・課長補佐・主任・看護師	航	航食堂	23
10月	【感染症予防と対策】ノロウィルスの感染拡大予防 ・標準予防策（手洗い ・ 個人防護具の脱着方法等） ・ 嘔吐物処理の手順	航	課長・課長補佐・主任・看護師	航	航食堂	24
11月	【応急手当訓練】心肺蘇生法の手順、AEDの使い方	航	課長・課長補佐・主任	航	航食堂	31
1月	平成25年度 すみなす会障害部門合同人権研修 『福祉と人権（精神障害者を中心として）』	障害部門 共催	平松 繁利 氏		多目的ホール	53
2月	平成25年度人権研修 1回目	法人	鈴木 敬彦 氏	和泉短期大学	益利谷地域ケアプラザ テイルーム	28
	平成25年度人権研修 2回目	法人	鈴木 敬彦 氏	和泉短期大学	益利谷地域ケアプラザ テイルーム	23
3月	各部署取り組み発表会「私たちの3大ニュース」～私たちの取り組んだこと～	航	課長、課長補佐、主任	航	航食堂	29

7 その他

(1) 苦情解決

苦情受付

(1) 苦情件数0件（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

(2) 苦情内容

苦情の内容	24 年度	25 年度
① 虐待・放置・脅迫・詐取に関する事	0	0
② サービス・支援内容に関する事	0	0
③ 個人の嗜好・選択に関する事	0	0
④ 利用者の所持金に関する事	0	0
⑤ その他		
合計	0 件	0 件

(2) 避難訓練

平成25年度の航の避難訓練は、7月31日、10月19日の2回実施した。いずれも大規模地震による火災の発生を想定したもので、ユニットの利用者の避難・誘導のほか、消火器の仕組みを学んだうえで水消火器での消火訓練を実施した。

・7月31日は日中活動場面での震災による屋間の火災を想定した避難訓練を行い（参加者96名：利用者、職員、10月：参加者90名：利用者、職員）、消防署への報告を行った。10月の避難訓練では白山道町内会から10名の参加があり、地域の方々の積極的な協力を受けながら安全に利用者を二次避難場所まで避難誘導することが出来た。

生活介護事業の分室である「和海」（金沢区釜利谷東）では、3月18日（地震想定）と3月27日（火災想定）、「羅針盤」（金沢区泥亀）では、7月23日（地震想定）に避難訓練を実施した。

平成 25 年度 地域支援室 事業報告

概説

本年度は、地域支援の更なる強化・拡充を図るべく、これまで航の組織下にあった「地域支援部」を「地域支援室」として分離独立し、地域支援に特化した法人の新たな障害者支援部門の一つとして運営を開始した。8月に金沢区能見台通に事業推進の拠点として「地域支援センター」を開設し、新規事業である指定特定相談支援事業（計画相談）及び居宅介護事業・重度訪問介護事業・横浜市移動支援事業を開始した。9月にはケアホーム運営管理業務を「地域支援センター」に移転し、地域支援室として一体的に事業を推進する体制を整えた。

また、平成 26 年 2 月に横浜市から障害者後見的支援事業を受託し、3月末には新築の車椅子対応型ケアホームが完成し、入居に向けた準備を進めるなど、重点項目としていた事業はほぼ予定通り進捗させることができた。

1 重点項目の実施状況

(1) 地域支援の強化

①車椅子対応型ケアホームの設置（11 か所目）

平成 26 年 3 月末に金沢区釜利谷東に新築平屋建で全室車椅子対応、定員 6 名のホームを設置した。車椅子対応は 2 か所目となる。入居者は全員女性で、一般公募を行い、在宅から 3 名、航入所から 3 名を受け入れた。

②ケアホーム入居者定員の増員

4 月から、つばきの定員を 4 名から 5 名に、晴海の定員を 4 名から 5 名に増員した。つばきは 4 月 1 日に在宅から、晴海は 5 月 26 日に航入所から各 1 名が入居した。

③利用者家族等との相互理解と信頼関係の増進

○会計報告会

年 2 回の「会計報告会」は本年度も継続して実施した。懇談の時間を多く設け、利用者の日常生活の様子を伝え、家族から要望を聞くなど、有意義な意見交換を行うことができた。4 月は全職員の紹介（顔写真）の冊子、半年毎に利用者の生活場면을写したアルバムを家族へ提供したことは好評だった。

○管理職による個別面談

平成 26 年 2 月に、希望者 10 名を対象に管理職による個別面談を行った。後見人についての質問が多く聞かれるなど、風通しの良い関係作り増進の機会となった。

2 地域支援拡充に係る新規事業の実施

(1) 指定特定相談支援事業（計画相談）

平成 25 年 8 月から、障害のある人が安心して地域生活が送れるよう、生活全般にわたる相談に対応するほか、適切なサービスの選択ができるよう支援する（サービス等利用計画の作成）等、相談支援事業を開始した。金沢地域活動ホームりんごの森の相談支援事業と連携して区内の障害児者の相談に応じ、計画相談支援については金沢

区福祉保健センターと協議しながら少しずつ実績を上げることができた。

(2) 居宅介護事業・重度訪問介護事業・横浜市移動支援事業

〔ケアステーション心海〕

平成 25 年 8 月から、障害のある人が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援するため、身体介護・家事援助等の居宅介護事業・重度訪問介護事業、さらに単独での外出が困難な人のために移動支援事業を開始した。開所後すぐに法人が運営するケアホーム利用者が多数利用契約し、ケアホームで勤務している有資格者の非常勤職員が登録ヘルパーとして活動するケースが目立った。在宅の人でも徐々に利用契約が増えてきており、特に通所通学支援の利用希望が多く入った。利用ニーズは確実に増えてきているものの、現状の体制では希望に添えない場合があり、求人広告やチラシの配布などを行い登録ヘルパーの新規確保に努めた。

(3) 障害者後見的支援事業

〔金沢区障害者後見的支援室 帆海（ほなみ）〕

8 月に横浜市健康福祉局による「障害者後見的支援運営法人運営委託」のプロポーザルに参加し、9 月に受託法人として選定された。後見的支援室の名称を「金沢区障害者後見的支援室 帆海（ほなみ）」として受託契約を交わした後、平成 26 年 2 月から担当職員 1 名、あんしんサポーター 1 名の体制で準備業務を開始した。

3 月に横浜市社会福祉協議会から、あんしんマネジャー 1 名の配置を受け、本格的に制度の周知及び相談受付を中心に業務を進め、制度登録者は 2 名となった。

2 平成 25 年度 地域支援室 事業活動収支決算概要

(単位:円)

	共同生活介護	計画相談	居宅介護 移動支援 等	後見的支援 事業
障害福祉サービス等事業収益	208,199,864	1,102,244	1,079,998	2,971,500
その他の収益	50,000			
サービス活動収益計 (1)	208,249,864	1,102,244	1,079,998	2,971,500
人件費	134,238,790	3,304,430	4,213,545	1,542,810
事業費	47,436,273		3,831,454	380,400
事務費	8,857,611	28,077	3,138,302	913,751
減価償却費	2,517,751		31,500	
国庫補助金取崩額	△976,937			4,550
サービス活動費用計 (2)	192,073,488	3,332,507	11,214,801	2,823,511
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	16,176,376	△2,230,263	△10,134,803	147,989
		△12,217,077		
サービス活動外収益 (4)	151,054	15,000	423	0
サービス活動外費用 (5)	0	0	0	0
サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	151,054	15,000	423	0
経常増減差額 (3)+(6)	16,327,430	△2,215,263	△10,134,380	147,989

3 実施事業（平成 26 年 3 月 31 日現在）

（1）共同生活介護事業（ケアホーム） ※国事業

事業所名		定員（人）	現員（人）	事業所名		定員（人）	現員（人）
1)	晴海	5	5	6)	つばき	5	5
2)	なかなかホーム	5	5	7)	いづみ	5	5
3)	拓海	5	5	8)	アイリス	5	5
4)	歩海	4	4	9)	はま風	5	5
5)	希海	4	4	10)	岬	5	5
				合 計		48	48

○4 月に緊急保護対応が必要な利用者 1 名がつばきに入居した。

○耐震強度の関係により 4 月に晴海が移転した。それに伴い定員を 5 名に増員し、5 月に航から 1 名が入居した。

※これにより平成 26 年 3 月 31 日現在のケアホーム利用者は 48 人となった。

①利用者状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

（ ）前年実績

	事業所名	運営 開始日	所在地	構成（人）		平均年齢 (歳)	身 障	自 閉	発 作	障害程度区分					
				男	女					6	5	4	3	2	平均
1	晴海	H16. 4.1	金沢区 釜利谷東		5	52.2 (54.0)	1	1	1	3	1	1	1		4.8 (4.5)
2	なかなか ホーム	H16. 4.1	中区 本郷町	3	2	40.2 (39.2)	1	2		1	2	2			4.8 (4.6)
3	拓海	H17. 4.1	金沢区 大道	5		51.8 (50.6)		1	1	2	3				5.4 (5.2)
4	歩海	H18. 4.1	金沢区 釜利谷南		4	51.5 (50.5)	1		1	2	1	1			5.25 (5.0)
5	希海	H19. 4.1	金沢区 六浦	4		43.0 (41.8)		2	1	2	2				5.5 (5.5)
6	つばき	H20. 10.1	金沢区 朝比奈		5	39.4 (43.0)	1		1		3	1		1	4.75 (4.25)
7	いづみ	H22. 4.1	泉区 和泉町	3	2	40.4 (39.4)	1	2	2	2	1	1	1		4.2 (4.2)
8	アイリス	H22. 4.1	泉区 和泉町		5	42.4 (41.2)	2		2			2	3		3.4 (3.4)
9	はま風	H23. 3.1	金沢区 釜利谷東	5		43.2 (42.2)		1	3	5					6.0 (6.0)
10	岬	H24. 1.1	金沢区 釜利谷東	5		35.2 (34.2)	2	2	4	4		1			5.6 (5.6)
	計			25	23	43.9 (43.5)	9	11	16	21 (15)	13 (15)	9 (11)	5 (6)	1 (0)	5.08 (4.8)

※利用者の平均障害程度区分は前年度 4.8 から本年度 5.08 に上がった。

これは、利用者の高齢等に伴う身体能力の低下等が要因となっている。

※利用者の障害程度区分は、最重度（障害程度区分 6 及び 5）の利用者が全体の 71%。

*利用者は、知的障害に加え、肢体不自由（18%）、自閉症（23%）、発作などの合併症（33%）がある。

*利用者の平均年齢は、43.9歳、前年度は43.5歳。

*利用者の男女比は、男性52%、女性48%。

②利用者の日中活動先（単位：人）

		就労	就労移行 支援	就労継続 支援：B	航 生活介護	その他 生活介護	地域活動支援 セブデイ型	小規模 作業所・他	介護保険 サービス	計
1	晴海	1		1	2	1				5
2	なかなかホーム			1		2	1	1		5
3	拓海				2	2			1	5
4	歩海				2	1		1		4
5	希海	0			3	1				4
6	つばき	1			2	2				5
7	いづみ						3	2		5
8	アイリス	1						3	1	5
9	はま風				5					5
10	岬				2	3				5
		3	0	2	18	12	4	7	2	48

○余暇活動

各ケアホームの余暇活動では、ガイドヘルパーの利用頻度が増したことにより余暇が充実した。内容は、外食、買物、観光、カラオケ等、利用者の希望に沿った個別余暇を多く実施することができた。また、ホーム毎での利用者の誕生会や仲間同士の外出など例年通りに実施できた。

○宿泊旅行

本年度もケアホームごとに「宿泊旅行」を行った。利用者の意向を聞き、皆で話し合いながら旅行先を決めるなど、企画の段階から旅行を楽しむことができた。

飛行機を利用した九州熊本や北海道旅行、温泉と食事を満喫する鬼怒川温泉旅行等を実施した。利用者の体調と希望に合わせ、旅行先で分かれて行動するなど、利用者の満足度が高い旅行となった。

○クリスマス会

前年度に引き続き、横浜テクノタワーホテルファミールで航の利用者・家族と合同でクリスマス会を行った。多数の参加があり盛大に行われた。会場がホテルということもあり、当日は利用者も正装して参加するなどし、ご家族、職員と一緒に楽しい1日を過ごすことができた。

○地域支援室新年会

1月に、航2階食堂を会場とし、地域支援室の新年会を行った。インフルエンザで参加が出来なかった利用者があったが、3回目で恒例行事として定着しつつあり、食事へのリクエストもあり、カラオケを楽しみにしている利用者が多かった。長寿を全員でお祝いし、新しいメンバーの紹介、ピンゴゲームと、大いに交流を深めることが出来た。

○インフルエンザへの対応

1月に泉区1ホーム、3月に金沢区の1ホームでインフルエンザが発生し職員、利用者が感染した。勤務にあたる職員を限定するようにし、他ケアホームへの感染拡大防止に努めた。予防接種やうがい手洗いでなく、居住空間の湿度も管理し予防にも努めた。

○降雪時の対応

2月に大雪のあった際は、事故防止の為、日中活動先や就労先、余暇外出のキャンセルをするなど、早めに連絡対応し外出を控えた。転倒などの事故もなく、安全に過ごす事ができた。

④安全への配慮

(平成25年度 事故件数)

() は前年度実績

①転倒	②外傷		③誤与薬		④所在不明		⑤他害	⑥異食	⑦誤嚥	⑧車両
	通院あり	様子観察	怠薬	落錠	施設外	施設内				
2 (10)	1 (7)	1 (5)	5 (10)	0 (2)	1 (3)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	2 (12)		5 (12)		1 (4)					
11件(30件)										

○事故件数は11件(前年度30件)で前年度より19件減少した。

◇転倒は、2件(前年度8件)で、前年度より6件減少した。2件は利用者の高齢化等による機能低下への配慮不足に起因するケースであった。

◇外傷件数は2件(前年度12件)で、前年度より9件減少した。これは上記の転倒による外傷であったため、職員の付添いを徹底するとともに、ご本人の状態や体調の引き継ぎを確実にし、安全対策を行った。

◇誤与薬・怠薬の事故件数は5件(前年度10件)で、前年度より5件減少した。

◇所在不明の件数は1件(前年度4件)だった。

◇他害行為は1件で、入居者が早朝他入居者の居室に侵入し、他害を行ったものであった。ケアホームの生活での約束を確認するとともに、ご本人の不安を解消できるよう、毎日ご本人と話をする時間を設ける事で改善を行った。

*事故件数が昨年度よりも全体的に減少している。これは、同様の事故を繰り返さないために、事故後速やかに全ホーム職員に事故の周知を行ったこと、軽微な事故でもすべて報告するよう義務づけたことにより安全意識を高めることに繋がった。

⑤人材育成

グループホーム火災や東日本大震災の教訓を踏まえ、安全意識の向上を目指すべく、常勤職員の防火・防災管理者の資格取得の為、主任・副主任から順次受講し、平成25年度は9名の常勤職員が受講を終了した。これにより防火・防災管理者は10名となった。

内部研修については、毎年継続して行っている栄養研修について航管理栄養士を講師として、本年度も3回実施した。管理栄養士の講義の他、各ホーム担当職員からの発表を

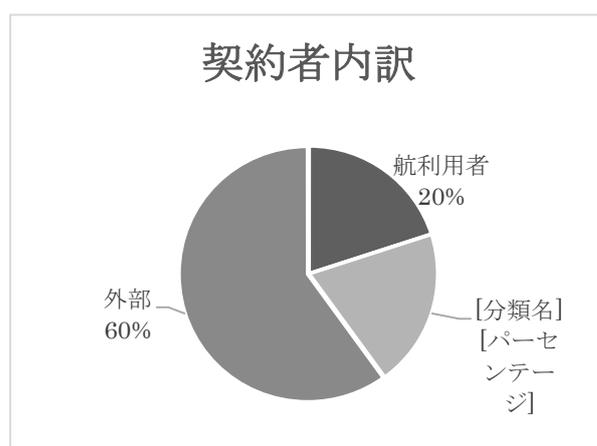
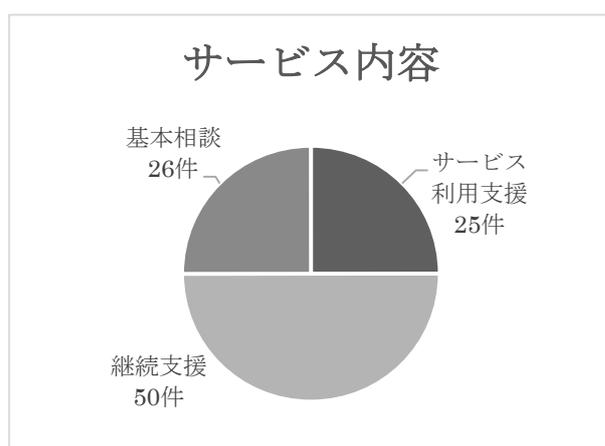
新たに設け、活発な討議ができた。定期的に研修を行うことにより、利用者の健康管理にとどまらず、豊かな食生活の提案や病気時の食事など幅広い研修を実施することができた。

平成 26 年 1 月には、航、りんごの森、地域支援センターが協力して障害部門合同研修会を開催した。外部講師による講演「福祉と人権 ～精神障害を中心として～」に地域支援センターからは職員 48 人が参加し、人権意識を一層深める機会とした。

(2) 指定特定相談支援事業（計画相談）

相談実績（H25 年 8 月～H26 年 3 月）

			単位	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
計画相談	契約数	航	人		2	1	0	0	1	0	1	5	
		ケアホーム			0	1	0	1	0	2	1	5	
		外部			1	2	1	4	1	1	5	15	
		計			3	4	1	5	2	3	7	25	
	サービス内容	新規利用支援	件		3	4	1	5	2	3	7	25	
		継続			0	3	7	8	10	9	13	50	
		計			3	7	8	13	12	12	20	75	
基本相談	就労に関する相談		件				2	1	1	0	0	4	
	制度・サービスに関する相談						1	3	2	1	2	9	
	法人サービスの利用相談						0	1	1	6	1	9	
	社会資源の情報提供						0	0	0	0	0	0	
	関係機関との連絡調整						0	1	0	0	0	0	1
	権利擁護・成年後見関係相談						0	0	0	0	0	0	0
	その他生活上の相談						1	1	1	0	0	0	3
	計						4	7	5	7	7	3	26



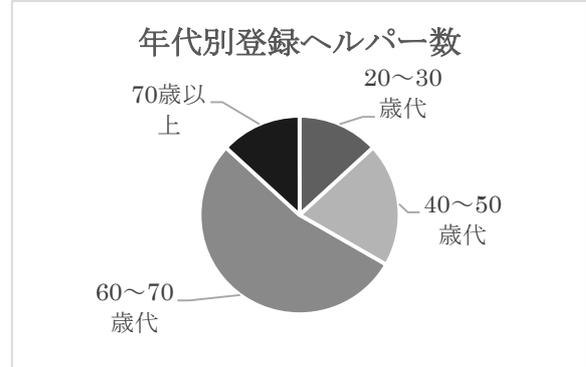
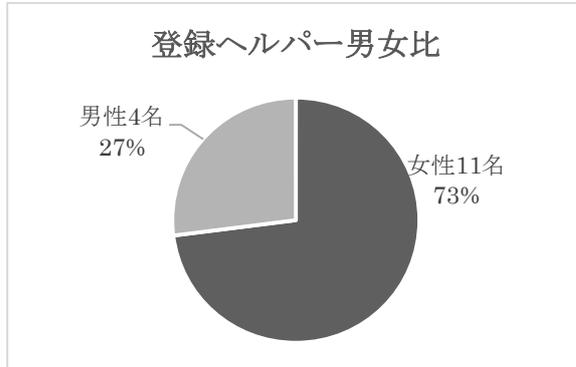
(3) 居宅介護事業・重度訪問介護事業・横浜市移動支援事業

実績（H25年8月～H26年3月）

CH：ケアホーム

		単位	8	9	10	11	12	1	2	3	計
居宅介護	新規利用契約者数	CH					1	0	0	0	1
		外部					1	2	0	0	3
		計					2	2	0	0	4
	延べ稼働利用者数	人						19	12	25	56
	稼働時間数	時間						20.5	13.0	25.0	58.5
移動支援	新規利用契約者数	CH	4	11	0	2	3	1	0	0	21
		外部	0	2	0	0	1	2	1	0	6
		計	4	13	0	2	4	3	1	0	27
	延べ稼働利用者数	人	4	15	2	1	17	47	19	25	130
	稼働時間数	時間	11.0	51.5	5.0	1.0	65.0	71.0	44.5	89.5	338.5
新規登録ヘルパー数		人	7	1	0	1	3	3	0	0	15

上記の表にあるとおり、サービス提供の8割以上が移動支援サービスとなっており、居宅介護・重度訪問介護は利用者数がなかなか伸びない状況であった。また、登録ヘルパーの高齢化も顕著であるため、行動障害のある利用者や高度な介助技術を必要とする利用者の支援が難しく、マッチングに苦慮することが多かった。



(4) 障害者後見的支援事業

相談受付 (件)

内容	2月	3月	計
制度案内		1	1
継続相談		1	1
他制度紹介		1	1
その他		1	1
計		4	4

登録者数（実人数） (人)

	2月	3月	計
登録者		2	2

周知活動 (件)

内容	2月	3月	計
制度説明	1	8	9
関係施設等訪問		14	14
計	1	22	23

(5) その他

① 苦情受付

◇苦情件数1件（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

◇苦情内容

苦情の内容	24年度	25年度
① 虐待・放置・脅迫・詐取に関する事		
② サービス・支援内容に関する事	2件	1件
③ 個人の嗜好・選択に関する事		
④ 利用者の所持金に関する事		
⑤ その他		1件
合計	2件	2件

② 苦情解決

事例1 利用者家族による職員への不満

（内容）5月1日、ケアホームの利用者家族から管理職との話を希望するため来所したいとの連絡があった。管理職が訪問前に電話したところ、担当職員の家族に対する電話の対応、さらに退職した複数の職員の不満の苦情があった。

（対応）家族からの苦情および担当職員から状況を聴取した。職員の態度については、誤解であることから、担当職員と管理職他2名が家庭訪問を実施した。退職した職員の支援内容の苦情については謝罪した。家族との連絡や報告を密にし、職員間で情報の共有に努めた。

（再発防止の取り組み）

◇電話等で連絡を密に行い、信頼して頂けるよう誠意をもって丁寧に対応する。ご本人と家族との関係が変化していることから、柔軟な対応で臨む。また、ご家族にご本人の障害特性を理解頂くよう努める。

◇ご本人から家族へ誤解した情報が伝わるが多いため、本人に理解できるように伝える。また、職員間で本人の障害特性を再確認し、入所から現在までの情報を整理し、支援内容や配慮する点の統一を図る。

事例2 契約解除を申し出た利用者への対応

（内容）平成26年2月、計画相談サービス利用契約を締結した利用者本人より、関係機関へ個人情報が出た事、サービス内容がよくわからないまま保佐人に進められ契約した事などの理由から、電話での契約解除の申し出があった。

（対応）保佐人からは計画相談サービスの利用継続依頼があったが、保佐人及びケースワーカーへ基本相談から関係構築を試みることを提案した。保佐人から意思確認をした所、拒否があり計画相談サービスの利用は中止となった。

（再発防止の取り組み）

◇サービス利用契約時には、利用者本人へより丁寧なサービスの内容説明及び同意の確認をしていく。

◇利用者本人へ事前に個人情報の使用についてや、サービス利用についての同意を得よう、保佐人及び区ケースワーカーへ伝えた。

平成25年度 金沢地域活動ホームりんごの森事業報告

概説

本年度は、りんごの森も10年目を迎え、あらためて金沢区における社会福祉法人型地域活動ホームの役割とあり方について再考する一年であった。職員一人ひとりが、事業所の外から自らの活動を見つめ直す機会として、他施設への実習研修を行った。

支援を行う側の視点ではなく、あらためて支援・サービスを必要とする立場に立ち、地域から必要とされる地域の拠点施設のあり方を検討し事業を進めた。

1. 重点項目の実施状況

(1) 横浜市地域生活支援事業の推進と拡充

① 利用しやすい環境の整備

昨年度に引き続き、ご利用者のニーズに寄り添った事業の推進に努めた。日々の特別支援学校等への送迎をとおり、今までご利用していなかった方々への認知が広がり、一時ケアは利用件数・利用時間共に伸ばすことが出来た。ショートステイは、緊急受入等を引き続き積極的に行った。その為、昨年度利用頻度の特に多かった緊急を伴わない連泊のニーズを他機関と連携し、費用負担の少ない航等の短期入所事業等へ繋げて行く等の対応を行った結果、泊数の実績は減少となった。

また、年度当初予定していた常勤職員の補充を行う事が出来なかった。次年度も引き続き体制強化を進め、より一層、ご利用者のニーズに寄り添った事業としていく。

② ショートステイ事業の生活保護受給者への減免

今年度の生活保護受給者の利用は2件あった。今後も、財政的負担から活動ホームのショートステイの利用がしづらい生活保護受給家庭にとって、より利用しやすい環境整備を継続していく。

(2) 職員の専門性の向上に向けた研修の推進

① 現場職員の他法人施設見学・実習の実施

地域の拠点施設である「金沢地域活動ホームりんごの森」の職員であること、そして、その役割を再度考えることのきっかけとするため、今年度は、日中活動に係わる職員が、他区の地域活動ホームや就労支援施設等への実習を兼ねた見学研修を行った。また、研修終了後、担当事業に関係なく、全職員に対して報告会を行った。

他事業所の具体的な取り組みを知ることで、りんごの森の長所や課題をあらためて共有する機会となった。今後も他事業に係わる職員を含め、継続して他施設等への見学研修を行う事で、地域で生活している利用者への対応という大きな視点を併せ持つことにより、更に支援力を高め、法人地活が地域から求められている事等を共有することで、各事業の実施に活かしていく。

② 人権意識の向上

例年の法人全体の職員を対象にした人権研修に加え、本年度は障害部門の設立に伴い、障害部門の非常勤職員を含め、全職員を対象にした人権研修を行った。あらためて障害を持つ方と係わる上での意識向上を図る機会となった。

③ 医療的ケア資格者の充足・推進

医療的ケアを必要とされる利用希望が年々増えており、本年度は、新たに医療的ケアの資格取得の為に研修へ非常勤職員 1 名が受講した。今後も資格取得者の増員を積極的に進めていく。

(3) 日中活動利用者のニーズに応じた支援

① 日帰り旅行の実施

平成 24 年度実施した家族懇談会にてご要望の高かった日帰り旅行を開所以来初めて行った。多くの参加者から、「楽しかった」という声をいただいた。職員も初めての企画・実施であったが、ご利用者の普段とは、ひと味違う笑顔を見させていただいたことで、次年度以降も継続・発展して実施していく意欲を示している。

② 家族懇談会の継続

今年度も、利用者家族との信頼関係や、風通しの良い関係を築くため、日中活動利用者ご家族を対象にした家族懇談会を 3 回に分けて実施した。今年度は特に、日帰り旅行時の様子をスクリーンで見させていただいた。ご家族より、りんごの森に対しての様々な質問や家族同士の話し合いの場を設けるなど大変好評をいただいた。今後も継続して開催し、ご家族との信頼関係をより一層築いていく。

③ 活動内容の充実

新たに下請け作業（箱折り）やオーラルピース（歯磨き粉）の包装等の活動を導入し、活動内容の充実に取り組んだ。

その他、金沢区作業所連絡会主催の合同バーベキュー大会やボレボレ交流会にも積極的に参加し、日頃の活動とは異なった活動への取り組みを積極的に行った。

④ 入浴支援の推進

今まで日中活動利用者にかかわる入浴設備は機械浴槽のみが整備されていたが、機械浴槽までの必要は無いが、ご本人の身体機能の低下やご家族の高齢化等により、新たに入浴支援を必要とする方が増えてきた。その様な需要に対し、現在の浴室に手すり付の一般浴槽を設置し入浴支援を開始した。

(4) 地域との交流の推進

地域交流事業のメインである『すみなすフェスタりんごの森感謝祭』では、天候に恵まれ約 630 名あまりの来客数を迎え、広そうに見える館内が人で埋め尽くされた。地域の中でりんごの森の存在が少しずつ定着してきたものと思われ大変にうれしいところである。一層地域の中で交流を積極的に進めていきたい。

2. 事業別報告（平成26年3月31日現在）

（1）「生活介護事業」「地域活動支援センター（デイサービス型）」

①利用状況

生活介護事業 定員30人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年	増減
開所日数	21	21	20	22	22	19	22	20	19	19	19	20	244	244	0
契約者数	64	64	64	64	63	63	64	64	64	65	65	67	△	△	△
区分2	17	18	19	22	17	0	0	0	0	0	0	0	93	228	-135
区分3	125	108	88	132	116	137	178	164	152	151	161	184	1,696	1,605	91
区分4	212	224	209	236	188	204	232	205	203	197	191	200	2,501	2,327	174
区分5	159	164	151	159	150	142	167	143	144	145	144	148	1,816	1,676	140
区分6	20	185	216	220	207	172	207	174	162	169	169	190	2,091	2,343	-252
合計	533	699	683	769	678	655	784	686	661	662	665	722	8,197	8,179	18
日平均	25.4	33.3	34.2	35.0	30.8	34.5	35.6	34.3	34.8	34.8	35.0	36.1	33.6	33.5	0

区分6の割合 27% 区分5・6の割合 49% 平均障害程度区分 4.5
 医療的ケアの必要な利用者数9名（口腔内吸引8 鼻腔内吸引2 経鼻経管栄養1 胃ろう8）

曜日別利用者

	月	火	水	木	金
本年度	39	41	39	41	38
前年度	33	35	34	34	32
増減	6	6	5	7	6

地域活動支援センター（デイサービス型） 定員10人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年	増減
開所日数	21	21	20	22	22	19	22	20	19	19	19	20	244	244	0
契約者数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	△	△	△
非該当	17	17	16	13	13	15	18	15	13	15	8	16	176	182	-6
区分1	19	20	18	22	15	18	19	20	18	18	15	18	220	204	16
区分2	75	78	67	75	64	66	78	70	65	57	55	61	811	711	100
月合計	111	115	101	110	92	99	115	105	96	90	78	95	1,207	1,097	110
日平均	5.3	5.5	5.1	5.0	4.2	5.2	5.2	5.3	5.1	4.7	4.1	4.8	4.9	4.5	0.5

曜日別利用者

	月	火	水	木	金
本年度	5	4	5	5	4
前年度	3	2	4	4	3
増減	2	2	1	1	1

②各活動班の状況と取り組み

・活動班

- a パン工房
- b 食品製造（菓子）
- c パソコン
- d 手工芸
- e 重心

・その他活動

- a 運動プログラム（ダイヤビック、車いすダンス、散歩他）
- b 外販
- c スヌーズレン

館内の創作活動のみならず、外部での販売や金沢区地域作業所連絡会行事への参加など様々な取り組みに目を向け実践を重ねた。初めての日帰り旅行は大型バスを利用し羽田空港へ行った。計4日間で利用者総勢52名 職員37名の参加があり、楽しい1日を過ごした。また、金沢区地域作業所連絡会主催のバーベキュー大会、ポレポレ交流会も当日の出勤者全員で参加した。通所年数を重ねている利用者にとっては特に変化のある活動は日々の活動に対しての良い刺激となり、更に日々の活動の安定につながった。

常勤看護師の退職により、看護師体制の不安定な状況が続いたが、医療的ケア研修を受けた支援職員と協力し、日々の活動において利用者・ご家族にご負担・ご迷惑がかからないよう支援を行った。

ご本人、ご家族等の高齢化が進み、計画的に他施設での短期入所を利用する方が増えてきた。特に重心の方の短期入所利用が多く、合わせて入院・体調不良での欠席などもあり、昨年と比べ通所人数が少ない日も見られた。

（2）相談支援事業

分類	平成24年度	平成25年度	方法内訳	平成24年度	平成25年度
地域生活支援相談	990件	992件	来所	247件	223件
HH・DS・SS等の利用援助	268件	220件	訪問	134件	125件
社会資源を活用するための援助	120件	140件	電話	949件	984件
就労支援に関する援助	11件	29件	メール郵便FAX	47件	82件
社会生活力を高める支援	22件	44件	同行	38件	12件
支援費の申請	4件	1件	合計	1415件	1426件
ピアカウンセリング	0件	0件			
合計	1415件	1426件			

※HH=ホームヘルパー DS=デイサービス SS=ショートステイ

平成24年度、25年度と、相談件数（延べ件数）は、1,400件を超えている。平成25年度の相談では、社会資源を活用するための援助、就労支援に関する援助など

が増加。方法内訳においては、Eメールを活用した連絡報告・相談等が増加した。各関係機関との連絡調整等、電話でのやりとりは、毎年非常に多い件数となっている。

金沢区地域自立支援協議会では、事例検討部会、広報・啓発部会、防災部会に加え、平成25年度より医療ケア・重心部会を設置、4つの部会で活動した。

事例検討部会では、日常困っている事例についてアンケートにて情報集約し、ワークショップ形式により関係機関での意見交換等を行った。また就労支援センターの協力のもと、センター長による講演会、就労事業所の見学会などを実施した。広報・啓発部会では、障害者理解を進めるため、ライフステージと相談先・支援・制度等の状況資料等を用い、地域ケアプラザや個別支援級保護者会などに往訪、周知活動を行った。防災部会では、区災害ボランティアネットワークについての講演や、要援護者の支援体制についての意見交換会等を実施。医療ケア・重心部会は、金沢養護学校担当教諭を中心に顔の見える関係作り、金沢養護学校の見学と活動の紹介、意見交換等を行った。

(3) 横浜市地域生活支援事業

ショートステイ実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	増減
計画的利用件数	34	37	36	37	34	36	44	38	46	44	37	56	479	470	9
緊急利用件数	1	3	1	3	2	2	1	0	0	2	1	3	19	36	-17
合計件数	35	40	37	40	36	38	45	38	46	46	38	59	498	506	-8
利用泊数	62	61	70	67	63	72	76	71	68	70	56	81	817	913	-96

緊急利用：利用日の1週間前から当日に利用相談があるものを緊急的利用としている。

一時ケア実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	増減
計画的利用件数	132	138	157	139	152	123	142	143	136	128	130	146	1,666	1,494	172
緊急利用件数	19	25	15	24	18	31	24	21	16	25	20	30	268	218	50
合計件数	78	112	111	137	175	142	174	160	160	129	158	176	1,934	1,712	222
利用時間数	515	413	480	537	680	428	455	458	461	457	439	512	5,835	4,767	1,068

緊急利用：利用日の1週間前から当日に利用相談があるものを緊急的利用としている。

おもちゃ文庫実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	増減
子ども	137	105	138	181	221	71	115	117	109	99	106	98	1,497	1,374	123
大人	108	91	112	144	168	66	104	97	90	79	79	73	1,211	1,108	103
合計	245	196	250	325	389	137	219	214	199	178	185	171	2,708	2,482	226

〈工作等イベント〉

4月 こいのぼり作り 6月 セタ作り 8月 手作りおもちゃ 9月 感謝祭 10月 手形作り(紙粘土) 11月 クリスマスリース作り 12月 エプロンシアター 1月 紙芝居 2月 雛人形作り

自立生活アシスタント実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	増減
登録人数	10	10	10	10	9	10	10	9	9	10	11	12	127	127	0
面接(来所)	5	12	9	8	7	6	5	6	8	10	10	5	91	164	-73
電話・メール等	79	82	83	56	60	48	52	53	50	45	68	45	721	494	227
訪問	23	30	30	22	20	21	20	16	21	16	25	27	271	331	-60
同行	34	36	28	28	27	26	29	29	35	21	29	27	349	173	176
その他	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	5	5	0

① ショートステイ・一時ケア事業

ショートステイは、ご家族との日頃のやりとりや他事業からの情報提供により、個別の声掛けや、体験的な利用を案内することで、追加利用や定期利用につながった。しかし、前年度はご本人・ご家庭の事情から連泊利用を必須としていた方が、自立アシスタントや相談支援事業が協働して入ることにより、生活が安定し、ショートステイが減った方が数人いた。その他、長期の連泊を必要とする緊急相談も前年に比べて少なかったことなどでショートステイの実績は、前年度より少ない結果となった。

一時ケアに関しては、放課後の過ごしについて学校へのお迎えを含めた利用希望が定例化した。また、夏休み期間に実施しているプログラム（調理や水遊び）などの導入などにより、一時ケア1回あたりの平均利用時間が1時間程度増えたことで年間の総利用件数や時間が増えている。

② 余暇活動

試験的にケアホーム入居の方などを対象とした休日の余暇活動として、調理クラブを実施した。半期ごとに募集をおこない、月1回同じメンバーで昼食づくりをおこなった。毎回同じメンバーでの実施となるため、利用者同士の関係性もでき、利用者から「次は〇〇を作ってみたい」などの声もあがり、楽しめる企画となっていた。

③ 自立生活アシスタント事業

2年目を迎え、登録者との関係性が安定してきた。25年度中に登録解除となったのは2名（市外への転居）。新規での登録者が4名と徐々に増えてきた。また、登録者との関係が安定してきたため、家庭訪問中心の支援だったものが、病院・役所等への同行や電話でのやりとりの動きが中心となり、訪問件数は減少傾向にある。

その他で外出レクリエーションを企画するなど、新たな試みを導入しつつ個々の生活がより充実したものになるよう関わりを続けている。

（4）地域交流事業

すみなすフェスタ「りんごの森感謝祭」を9月7日(土)に開催した。当日は天候にも恵まれ、約630名の方が来館され、盛大なものとなった。特に乳幼児は、おもちゃ文庫イベントやパン体験などを楽しみに来られた大人数のグループが目立った。また、医療的ケアを必要とする重心の方を含め、当事者の来館も多く見られた。毎年の継続した開催で、地域の方々への定着が感じられる行事となった。

(5) 実習生・見学者 受入状況

実習生受け入れ状況

	希望者数	実習実施	受け入れ
県立金沢養護学校	2	2	2
在宅（区などから紹介）	3	3	3

受け入れ5名中 重心1名（内 要医療1名）

3. その他

苦情解決（1件）

事例ー1 『送迎時の事故報告が無かった事による対応の遅れ』

内容

日中活動の帰りの送迎時、釜利谷地域ケアプラザ近くの酒店脇の狭い路地を左折した際、小学生が停車していた自転車3台を倒してしまう。その際、運転手は降車せず、添乗職員が降車・確認をし、自転車を元に戻した。酒店から出てきた自転車の持ち主の小学生に対し、自転車の状態を確認するが大丈夫ということで、事業所の連絡先等も伝えずその場を立ち去った。また、運転手及び添乗員ともに、自転車の破損に気づかず、送迎中に自転車を倒した事について、事業所への報告を行わなかった。

その後、確認した小学生とは別の自転車を所有する小学生が、自分の自転車を確認すると後輪が変形し、乗車出来る状態で無い事を確認する。小学生が帰宅後、家族へ「すみなす」のロゴの入った車両に自転車をぶつけられ壊れたと話し、家族から釜利谷地域ケアプラザに問い合わせが入る。小学生が車両の色を白と言っていたことから、ケアプラザの車両と一致したものの、ケアプラザ及び航では該当するものがないことを確認しその旨を返答した。

しかし、再度家族より問い合わせがあり、事故の2日後、航よりりんごの森へ連絡確認が入る。車両の色は異なっていたが、事故当日に送迎添乗に係わった職員へ聞き取りを行い、りんごの森の車両が停車中の自転車との接触事故があったことが判明した

対応

事件事実を確認後、即座に被害者宅へ謝罪に出向き、損傷した自転車を確認し弁償をお伝えする。また、その場に被害者（小学生）が不在であったため、改めて謝罪に伺う。その後、警察へ被害届を出したという事であったため、警察に出向き事情説明等を行う。

今回は、自ら連絡をしており、被害者も和解を受け入れたので刑事事件とはならないが、明らかに当て逃げの事件となる事案であるので、今後、気をつけるようにと強く叱責を受ける。今回の事故時の対応（損傷の確認がずさんである。運転手が乗車したままの対応等）や、聞き取りをするまで事業所に事故報告が無かった事などは大きな問題であり、職員会議にて、どのように些細なことであっても必ず報告をすること。車両での

事故に関するニュースが多々ある中、運転手・添乗にかかわらず、送迎については十分に注意して行なっていくように、ひとり一人意識して行動することの重要性について全職員へ再度周知徹底を行った。

4. 財務状況報告

平成25年度収支決算概要

りんごの森（社会福祉事業）事業活動収支総括表

	25年度	備考
自立支援給付費収益	85,875,775	生活介護事業介護給付費
特定費用収益	5,066,314	利用料収入
補助金事業収益	6,379,300	地域活動支援センター介護給付費等
受託事業収益	18,353,000	委託費
その他収益	34,700	
サービス活動収益計〔A〕	115,709,089	
人件費	98,269,997	
事業費	17,102,800	
事務費	16,457,219	
減価償却費	15,673,607	
国庫補助金等特別積立金取崩額	-14,990,597	
サービス活動費用計〔B〕	132,513,026	
サービス活動増減差額〔C〕=(A-B)	-16,803,937	
受取利息配当金収益	31,270	
その他のサービス活動外収益	2,402,950	利用者以外の給食費等収益
雑収益	6,826,925	パンなど売上・退職金収益
サービス活動外収益計〔D〕	9,261,145	
サービス活動外費用計〔E〕	0	
サービス活動外増減差額〔F〕=(D-E)	9,261,145	
経常増減差額〔G〕=(C+F)	-7,542,792	

平成25年度 釜利谷地域ケアプラザ事業報告

「第2期地域福祉保健計画」の中間期にあたり地域、区社協、区とともに振り返りを行い、ケアプラザ主催事業や地域の活動実施団体との共催事業など計画を意識的に関連づけて取り組み地域における福祉活動、保健活動等の支援や交流のための施設として地域における支え合い、地域づくりが円滑に進められるよう取り組んだ。

災害時のマニュアルに基づきデイサービス利用者も含めた訓練を実施し、職員全員が迅速、的確に行動できるよう訓練を実施し、片手でも装着できる防災頭巾を業者と創りすぐに着用できるように備えた。

また、通所介護事業では、利用者人数の減少があった。背景には、近隣に特化した小規模デイサービスの新設、利用者ニーズがリハビリに集中している状況があるが、稼働率をあげながら、利用者ニーズの変化にこたえられるよう体制づくりの準備をした。ケアプラザ全部門一丸となって改善の努力をしていく。

実施事業

(1) 地域活動・交流事業

地域住民の福祉・保健活動を支援するため、行政並びに関係機関、地域団体等と連携・協働し各種事業を実施するとともに、地域福祉保健計画の支援チームメンバーとして区、区社協、地区社協と協働しながら計画の実現を目指した。

自主事業においては、引き続き長期的な視野での事業展開と、必要な人が必要な支援を受けやすい環境の提供と、人と人とがつながりをもてる事業を展開した。

- ①高齢者の体操教室に夏休み中の個別支援学級・養護学校に通う生徒をコーディネーターのアシスタントとして受け入れ、交流の場を提供し、障がいの理解の拡大に努めた。
- ②障がい児者向けにアメリカ人講師による文化交流会(ハロウィン、イースター)を企画し、興味の幅を広げるとともに、日本の社会とは違った雰囲気でのコミュニケーションを体験できる機会を設けるとともに、外国人の活躍の場とした。
- ③中高年以上を対象にした手芸サロンは、平成25年度より地域活動・交流事業から地域包括支援センターとの共催事業とし、支援の充実を図った。また、医療講演会、出張講座等、地域包括支援センターとの共催事業を多く実施することにより、それぞれの視点や立場を活かした包括的な事業展開にもつなげることができた。
- ④子育て支援事業については、年齢別や年齢を越えた事業、体操教室やおはなし会等さまざまな事業を提供した。
- ⑤「地域支えあい連絡会」においては、情報の共有と交換を行うとともに、「ラジオ体操と地域の和・心の輪」をテーマに地域支えあい連絡会主催の講演会を開催した。
- ⑥広報紙「やまなみ」においては協力医の協力により、地域の方々に向けて疾病予防や健康管理についての執筆をしていただくとともに、地域包括支援センターからの情報や地域とケアプラザとを結ぶ貴重な媒体として地域の方にもご利用いただくよう努めた。

- ⑦地域の方々の福祉保健活動を推進するためのケアプラザ施設利用を図るとともに、支援が必要な団体に対しては、支援を受けながら安心して活動できる場としての提供を心掛けた。

※実施状況は別紙

(2) 地域包括支援センター事業

社会福祉士、主任ケアマネジャー、地域相談の経験のある看護師の専門職が連携し、総合相談事業、権利擁護事業、包括的継続的ケアマネジメント事業、介護予防ケアマネジメント事業、介護予防支援事業を実施した。

ア) 総合相談支援事業

① 総合相談件数

	電話	来所	訪問	合計
25年度	748	292	167	1,207
24年度	769	272	161	1,202
増減	▲21	20	6	5

※ 電話等：ファックス、メール相談含む

② 総合相談内容の内訳（電話・来所の主な内容）述べ件数

	介護保険	介護予防事業	包括的支援事業	行政サービス	インフォーマルサービス	介護・医療	施設入所・入院	権利擁護関係	日常生活課題	苦情	合計
25年度件数	940	52	81	29	13	169	172	25	167	4	1,652
24年度件数	909	82	6	29	31	115	161	52	453	4	1,842

イ) 権利擁護事業

①権利擁護に関する相談

25件(延べ件数)

内容 ・ 成年後見制度に関する相談

(制度説明や、申立書の書き方支援、困難ケースについてケアマネジャーや区役所職員、司法書士とのカンファレンスを開催)

- ・ 消費者被害に関する相談（オレオレ詐欺、住宅改修トラブル）
- ・ 高齢者虐待通報対応（親族や居宅介護支援事業所のケアマネジャー、通所介護施設、地域住民からの報告に基づき、同行訪問や会議の開催）

②その他、権利擁護事業に関する業務

- 区主催の成年後見サポートネットワーク事業に参加（年4回）
- 区主催の高齢者虐待防止連絡会に参加（年1回）
- 金沢区地域包括支援センター社会福祉士部会で消費者被害防止のためのチラシを年3回作成し、ケアプラザ内や地域の町内会掲示板（任意）に掲示した。
- 町内会出張講座にて、最近の消費者被害情報や成年後見制度についての説明、周知を行った。
- 広報誌やチラシを作成し、消費者被害防止や成年後見制度について周知を行った。
- 「介護者のつどい」を年6回実施（「介護予防教室」「終活セミナー」「施設見学会（有料老人ホーム エデンの園）」「ちぎり絵教室」「免疫力を高める料理教室」「薬について」）

ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

①担当エリア内のケアマネジャーからの相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	7	5	8	20	7	15	21	10	7	13	7	10	130
24年度	11	15	15	7	14	6	6	15	8	6	3	10	116
増減	▲4	▲10	▲7	13	▲7	9	15	▲5	▲1	7	4	0	14

②事業等取り組みについて

- 出張講座を小泉・パークタウン・赤井・白山道町内会で実施。
- 区/区主任ケアマネ部会/金沢ケアマネ倶楽部と三者共催で、合同研修を実施。
- 区主任ケアマネ部会、金沢区医師会と情報交換会を開催及び医師会主催の研修会参加。
- エリア内外で活動するケアマネジャー対象に「地域ケア会議」講演会を行った。
- 民生委員とケアマネジャーの情報交換会を開催して「地域ケア会議」の説明を行った。
- 釜利谷地域包括支援センター独自の「あんしんカード」を作成、配布。
- 金沢区内に就職した新人新任ケアマネジャーに区主任ケアマネ部会として3回の研修を実施。
- 金沢区南部の5か所の地域包括センターの主任ケアマネジャーが共催で事例検討会を2回/年実施。
- 金沢区ケアマネ倶楽部役員会にオブザーバーとして9か所の地域包括支援センターの主任ケアマネジャーが輪番で出席した、また医療連携研修会及び福利厚生委員会に参加。
- エリア内の認知症対応グループホームの運営推進会議（3施設）に各1回/2ヶ月、オブザーバーとして出席。
- 西金沢地域包括支援センター、区、金沢文庫病院の医師、相談員と訪問診療を行っている医師2名と「釜利谷医療地域ケア会議」を行い、医療と福祉の連携について検討した。

エ) 介護予防ケアマネジメント事業

①65歳以上のすべての高齢者への取り組み

- ・出張講座やイベント等で、参加者に対し「基本チェックリスト」を配布後回収した、また、介護予防に関するミニ講座を実施。
*基本チェックリストとは、現在の自分の状態を知る、日頃の生活を振り返り 25 項目の質問に答えてチェックするシート。将来的に要介護になる可能性が高い方を早期発見し予防していくことが目的。
- ・筋力低下予防、転倒予防のための運動プログラムを「赤井北部町内会館」「ニューライフ自治会館」「坂本町内会館」「パークタウン自治会館」で実施し、その際には、基本チェックリストを配布回収し、該当者を中心に釜利谷ケアプラザで「口腔ケア」「筋力アップ」講座を実施した。
※自治会館、町内会館で実施したことにより、参加者が増加した。
- ・「筋トレで認知症予防」や「脳活性化リハビリゲーム（スリーA）」講座を開催し、認知症予防の地域支援者育成を行った。

②要支援・要介護状態となる恐れがある高齢者への取り組み

自宅へ訪問し医療状況や健康状況の確認、課題分析、ケアプラン作成要否検討、アセスメント・支援記録表の作成、介護予防プログラムの内容説明、参加の声かけ、予防の必要性などの説明を行った。又、委託先担当者会議へ出席しケアプラン等についてアドバイスをした。

オ) 介護予防支援事業

①包括支援センター担当件数(給付管理票作成件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	35	34	37	36	31	29	32	33	36	37	30	34	404
24年度	77	76	75	79	77	77	78	81	83	82	84	81	950
増減	▲42	▲42	▲38	▲43	▲46	▲48	▲46	▲48	▲47	▲45	▲54	▲47	▲546

※ 包括支援センター担当件数とは、包括支援センターで作成した件数

②委託件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	130	123	125	130	123	127	129	128	128	129	132	125	1529
24年度	76	76	77	79	83	81	82	80	81	78	82	87	962
増減	54	47	48	51	40	46	47	48	47	51	50	38	567

※ 委託件数とは、包括支援センター以外の居宅介護支援事業所に委託契約を行い、介護支援専門員が作成した件数。

プランナー雇用できなかったため内部での作成件数が減少し、委託が増加した。

(3) 指定通所介護事業

居宅サービス計画書に基づき通所介護計画を作成し、ご利用者の日常生活動作(ADL)の維持改善と生活の質の向上に努めた。関係機関と連携し、質の高いサービスを提供した。また、ご家族との信頼関係を築き、身体的精神的負担の軽減を図った。ご利用者が『楽しかった!』『また行きたい!』と思って頂けるデイサービスを目指し、プログラムの見直しを実施、イベント増加等の準備をおこなった。計画的に研修参加を進めスキル向上、サービスの質の向上を図った。

(ア) 見学

利用前の見学の受け入れを行うことでどのような場所なのかを理解して頂き、新規利用に繋がった

(イ) 曜日毎に特色のあるプログラム作り

体操教室やカラオケクラブなど曜日ごとに特色を持たせるようにレクリエーションのクラブ活動化の準備をすすめた。

(ウ) 季節ごとの行事

近隣公園への花見・帰り送迎での花見ドライブ・夏祭り・敬老会・運動会・クリスマス会を実施。

年末には利用者大忘年会を行い、そば打ち体験を実施し年越しそばとして召し上がっていただいた。また、職員の余興(演奏・合唱・劇等)を見て大笑いし、締めくくりには利用者職員による紅白歌合戦で年末最後大いに盛り上がった。

(エ) イベント

月2回のお楽しみランチ・選択メニューの他にバイキング形式・お鍋パーティー・お寿司パーティー等)を実施し楽しみになる食事の提供を提供した。

(オ) 訓練

震災に備え、防災頭巾を購入し、被る訓練や誘導訓練を行い震災に備えた。

(カ) 交流

地域施設や小学校・保育園とレクリエーションを利用者と一緒に行い交流を図った。中学生の福祉体験学習なども受け入れた。

※その他

昨年度ご利用者皆様と作成した貼り絵を月刊誌(デイサービス雑誌)のクラフトコーナーへ投稿し、優秀賞を受賞したことから、今年も貼り絵の大作を作り応募した。

ク) 開館日数 355日

ケ) 介護度別利用状況（延べ利用者数）（平成25年4月～平成26年3月）単位：人

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総数	実施日数	平均利用者数/日	最高利用者数/日
4月	225	218	87	88	48	666	30	22.2	28
5月	215	248	90	96	53	702	31	22.6	30
6月	189	222	93	85	44	633	29	21.8	25
7月	214	215	74	77	52	632	31	20.4	26
8月	221	236	83	77	47	664	31	21.4	26
9月	214	247	50	78	44	633	30	21.1	26
10月	227	265	48	63	50	653	31	21.1	28
11月	206	258	38	60	50	612	30	20.4	24
12月	213	242	42	59	42	598	28	21.4	29
1月	214	245	43	71	41	614	28	21.9	30
2月	183	221	57	60	24	545	25	21.8	30
3月	171	298	66	66	37	638	31	20.6	28
合計	2,492	2,915	771	880	532	7,590	355	21.4	
前年	2,506	3,073	1,359	889	540	8,367	358	23.4	
増▲減	▲14	▲158	▲588	▲9	▲8	▲777	▲3	▲2	

コ) 介護度別登録者数（H26.3月現在登録者数） 単位：人

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総数
25年度	21	34	8	7	4	74
24年度	25	23	11	12	3	74
増▲減	▲4	11	▲3	▲5	1	0

(4) 指定介護予防通所介護事業

要支援1及び要支援2のご利用者を対象に「介護予防通所介護計画」を作成し、身体機能の向上を目的として、集団的に行なうリハビリ体操、散歩（階段を昇降）、レクリエーション、制作活動等やクラブ活動を実施し、自立した日常生活が送れるように支援した。

ア) 開館日数 355日

イ) 介護度別利用状況（延べ利用者数）（平成25年4月～平成26年3月）単位：人

	要支援1	要支援2	総数	実日数	平均利用者数/日	最高利用者数/日
4月	38	157	195	30	6.5	13
5月	30	168	198	31	6.4	12
6月	38	166	204	29	7.0	12
7月	30	170	200	31	6.5	13
8月	25	157	182	31	5.9	11
9月	27	135	162	30	5.4	10
10月	23	148	171	31	5.5	11
11月	38	141	179	30	6.0	11
12月	33	136	169	28	6.0	12
1月	31	123	154	28	5.5	10
2月	27	126	153	25	6.1	12
3月	33	146	179	31	5.8	13
合計	373	1,773	2,146	355	6.0	
前年	384	1,632	2,016	358	5.6	
増▲減	▲11	141	130	▲3	0.4	

ウ) 介護度別登録者数 (H26.3月現在登録者数) 単位:人

	要支援1	要支援2	合計
25年度	8	19	27
24年度	11	23	34
増 ▲ 減	▲3	▲4	▲7

(5) 居宅介護支援事業

利用者の心身の状況と、利用者を取り巻く人的・物的環境を総合的にとらえ、住み慣れた地域で自立した生活が送れるように、サービス事業所をはじめ地域包括支援センター、区役所、病院等と密に連携をとり、多職種で在宅生活を支えるチーム作りを行い支援した。

居宅事業ケアプラン作成数(要介護1~要介護5判定の方)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	101	101	101	97	97	96	101	104	104	101	107	111	1221
24年度	98	101	102	98	95	90	92	97	97	95	98	90	1153
増減	3	0	▲1	▲1	2	6	9	7	7	6	9	21	68

介護予防ケアプラン作成数(要支援1~要支援2判定の方)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	63	60	58	57	55	53	52	50	50	49	49	47	643
24年度	21	21	20	20	20	21	21	19	23	17	19	18	240
増減	42	39	38	37	35	32	31	31	27	32	30	29	403

※ 予防プランは居宅プラン0.5件分

※ 常勤換算でケアマネジャー一人当たりの件数限度は、介護・予防合わせて39件

※ 現在の常勤換算では一か月あたり151件が上限。

金沢区等委託契約による介護認定調査件数(区との契約数は年間240件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	22	19	15	15	20	19	13	13	16	16	14	20	202
24年度	18	17	18	12	20	21	14	8	14	20	13	21	196
増減	4	2	▲3	3	0	▲2	▲1	5	2	▲4	1	▲1	6

(6) 平成25年度事業活動収支決算概要

①通所介護事業活動収支総括表

	25年度	備考
介護保険収入	86,478,898	H24年度29名/日 H25年度27.4名/日
その他の収入	7,062,021	
計(A)	93,540,919	
人件費	66,333,939	
事務費	10,205,567	
事業費	18,350,347	
その他の支出	540,665	
計(B)	95,430,518	
サービス活動増減差額(C)	▲1,889,599	
その他の収益(D)	773,119	
その他の費用(E)	0	
サービス活動外増減差額(F)	773,119	
経常増減差額(C)+(F)=(G)	▲1,116,480	利用者数減による

②居宅介護支援事業活動収支総括表

	25年度	備考
介護保険収入	18,234,061	
その他の収入	954,450	
計(A)	19,188,511	
人件費	18,541,822	常勤1名増による増額
事務費	1,388,240	
事業費	19,685	
その他の支出	260,311	
計(B)	20,210,058	
サービス活動増減差額(C)	▲1,021,547	
その他の収益(D)	786,101	
その他の費用(E)	0	
サービス活動外増減差額(F)	786,101	
経常増減差額(C)+(F)=(G)	▲235,446	

別紙

地域活動・交流事業

ア) 支えあい連絡会の開催

(平成25年4月～3月)

	開催数	参加人数	テーマ・内容詳細等
平成25年度(連絡会)	4	71	情報交換
(講演会)	1	31	講演会「ラジオ体操と地域の和・心の輪」
平成24年度(連絡会)	3	53	情報交換
(講演会)	1	27	講演会「地域福祉における近隣活動の役割」

イ) 広報紙及びチラシの発行

	広報紙		チラシ		配布先
平成25年度	4回	6000枚	7回	10500枚	各町内会・関連機関に配布
平成24年度	4回	6000枚	7回	10500枚	

ウ) 貸館利用状況

件数 (単位:件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H25 合計	H24 合計	前 年 比
多目的	午 前	21	24	23	23	16	21	20	23	18	17	17	22	621	629	-8
	午後1	20	23	19	19	15	19	20	25	16	13	15	21			
	午後2	12	12	11	12	10	12	15	15	8	8	11	13			
	夜 間	3	1	1	1	2	0	0	0	0	0	2	2			
調理室	午 前	14	19	20	15	11	13	18	17	13	16	13	19	484	496	-12
	午後1	15	21	20	18	10	15	20	23	15	16	15	19			
	午後2	5	8	8	7	3	4	8	13	4	4	7	8			
	夜 間	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	2	2			
ボラ	午 前	13	11	16	14	7	15	16	16	11	13	15	12	471	364	107
	午後1	14	15	16	12	9	15	17	17	14	14	16	16			
	午後2	10	11	11	10	6	10	10	15	11	10	10	15			
	夜 間	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	2	2			
合 計	129	146	147	131	93	124	144	164	111	117	125	145	1576	1489	87	

稼働率 (単位:%)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H25 平均	H24 平均	前 年 比
多目的	午 前	72	80	79	77	53	72	67	79	67	63	63	73	70	63	7
	午後1	69	77	66	63	50	66	67	86	59	48	56	70	65	67	-2
	午後2	41	40	38	40	33	41	50	52	30	30	41	43	40	50	-10
	夜 間	13	4	4	4	8	0	0	0	0	0	9	9	0	4	3
調理室	午 前	48	63	69	50	37	45	60	59	48	59	48	63	54	49	5
	午後1	52	70	69	60	33	52	67	79	56	59	56	63	60	60	0
	午後2	17	27	28	23	10	14	27	45	15	15	26	27	23	33	-10
	夜 間	8	4	4	0	8	0	0	0	0	0	9	9	0	4	2
ボラ	午 前	45	37	55	47	23	52	53	55	41	48	56	40	46	41	5
	午後1	48	50	55	40	30	52	57	59	52	52	59	53	51	39	12
	午後2	34	37	38	33	20	34	33	52	41	37	37	50	37	24	13
	夜 間	0	0	4	0	8	0	0	0	0	5	9	9	0	3	3

※ 多目的:多目的ホール ボラ:ボランティアルーム

利用人数 (単位:人)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H25 合計	H24 合計	前 年 比
		851	971	1850	867	508	766	816	1007	728	812	1060	966	11202	10356	846

自主事業等実施状況

(平成 25 年 4 月～3 月)

		開催数	延参加者数	主 な 内 容	
地域 活動 交流	高齢者	H25	25	402	介護予防体操教室、落語、フォークダンス、ウォーキング
		H24	26	546	介護予防体操教室、料理教室、落語、フォークダンス
		前年比	-1	-144	
	中高年	H25	6	63	手芸サロン
		H24	5	36	手芸サロン
		前年比	1	27	
	学童	H25	2	39	料理教室、万華鏡の仕組みを知る講座
		H24	3	59	料理教室、工作教室
		前年比	-1	-20	
	子ども・養育者	H25	79	2373	親子体操、パパ向けベビーマッサージ、リミック、講座
		H24	76	2518	親子体操、コンサート、子育てサポートシステム説明会
		前年比	3	-145	
	障がい児者	H25	26	255	体操教室、放課後支援、料理教室、職業体験、外国文化
		H24	21	237	体操教室、放課後支援、料理教室、ゲーム
		前年比	5	18	
	多世代交流	H25	5	170	ブラレール広場
		H24	5	130	ブラレール広場
		前年比	0	40	
健康作り	H25	18	410	ヨガ、体操教室	
	H24	29	355	ヨガ、腰痛膝痛予防体操、	
	前年比	-11	55		
地域交流	H25	13	298	コンサート・茶話会、輪飾り作り、ゴスペル	
	H24	16	312	コンサート・茶話会、輪飾り作り、ゴスペル	
	前年比	-3	-14		
地域 包括	介護者	H25	6	85	終活セミナー、施設見学、料理、介護技術、講演会
		H24	6	120	施設見学、緊急時の対応方法、福祉用具、コンサート
		前年比	0	-35	
	特定疾患	H25	2	13	パーキンソン交流会
		H24	2	25	パーキンソン交流会
前年比	0	-12			
地域 活動 交流 ・ 地域 包括 との 共催	出張講座	H25	5	132	小泉、ホークリ、阿王ヶ台、白山道、赤井
		H24	6	167	阿王ヶ台、赤井北部、宮ヶ谷、御仲井赤坂、宿、ニューライ
		前年比	-1	-35	
	会食サロン	H25	1	78	食事会・サロン
		H24	2	136	食事会・サロン
		前年比	-1	-58	
	福祉保健等 (講座、講演会)	H25	4	86	肺の生活習慣病、膝の痛み、ラジオ体操、認知症サポート
		H24	5	111	リハビリ、栄養、認知症、地域福祉、手術室
		前年比	-1	-25	
	福祉教育 職業体験	H25	15回		釜利谷南小学校、並木中学校、富岡中学校、庄戸中学校、かのん保育園
H24		11回		釜利谷南小学校、富岡中学校、かのん保育園、フルドリール金沢	
その他	すみなすフェスタ、車椅子貸し出し				

平成25年度 柳町地域ケアプラザ事業報告

柳町地域ケアプラザの対象エリアの方々の生活状況や地域の特性を考慮しながら課題を把握し、地域の方々と協力しながら課題解決に取り組んできた。さらに地域ケアプラザとしての業務内容等明確に周知して頂く為、地域活動交流事業・地域包括支援センターが連携を図りながら地域に積極的に出向き事業を展開してきた。また、災害時の取り組みとして防災頭巾・食糧等の準備も徐々に進めている。

地域活動・交流事業では、新しい事業を企画し高齢者だけでなく多くの地域の方々が参加できる場を設けた。

通所介護・認知症対応型通所介護事業では、病気の進行に伴い入院・入所を余儀なくされる方が増え収入減となった。

認知症対応型通所介護「やまゆり」では、順調に営業できている。

実施事業

(1) 地域活動・交流事業

地域の福祉・保健活動推進のため、幅広い年齢層に向けた事業を企画実施した。不定期で地域の方が参加できる食事会「ほっとランチ」では登録団体の方に配膳のボランティアを依頼し地域の方との交流、ケアプラザ事業への理解を図った。

毎月定例の事業としては障がい児者余暇支援「おひさま広場」、学童対象の「レゴパーク」を開始した。4周年記念フェスタでは地域の方にフリーマーケットスペースを募り、東北震災支援ブースも設けた。

貸館の利用については既存の登録団体のメンバーの減少が見られ、広報紙に登録団体紹介とメンバー募集記事を掲載し、何人かの見学、参加に繋がった。

地域との連携では、町内会等が主催する「避難訓練」などに参加、地域との関係を深めた。

※ 実施状況は別紙

(2) 地域包括支援センター事業

相談において一人一人の状況を考えて必要なサービスに繋げるよう努めた。

近隣住民、民生委員、区役所等からの通報によりサービス等が介入しておらず、何らかの問題が見られるケースについて定期的に訪問・架電を行った。

ケースの対応に関しても、三職種が連携を図ることで充実した対応ができるようになった。身近な相談窓口として、相談しやすい状況を作り、的確な情報提供に努めた。

ア) 総合相談支援事業（電話・来所者の主な内容）

	介護保険	介護予防事業	包括的支援事業	行政サービス	インフォーマルサービス	介護・医療	施設入所・入院	権利擁護関係	日常生活課題	苦情	その他	合計
25年度件数	502	0	2	11	23	93	30	51	55	1	54	822
24年度件数	501	1	12	5	17	86	26	45	51	1	128	873

イ) 権利擁護

① 権利擁護に関する個別相談

51件（延べ件数）

内容 後見制度に関する相談（法定後見人についての制度や書式を案内）

訪問販売等の被害に関する相談（消費者センター、警察等に連絡）

虐待に関する相談（身体的虐待・経済的虐待・虐待疑いを含む）

② その他、権利擁護事業に関する業務

- ・ 4月 様々な法律に関する無料相談会を行い、個別相談会を実施した。
- ・ 5月 行政書士に講師を依頼し、成年後見制度・遺言書の書き方についての講演会を行った。
- ・ 11月 認知症についての講演会を行い、認知症についての周知を図った。
- ・ 金沢区成年後見制度利用促進事業事例検討会に参加。
- ・ 消費者被害問題や成年後見に関するチラシを配布・掲示し、周知を図ると共に、2月に消費者被害についての講座を実施。

ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

① 担当エリア内のケアマネジャーからの相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	1	3	5	1	2	7	7	4	2	2	5	4	43
24年度	10	8	5	6	6	8	11	4	8	7	1	3	77
増▲減	▲9	▲5	0	▲5	▲4	▲1	▲4	0	▲6	▲5	4	1	▲34

- ・ 1か月に1度エリア内居宅介護支援事業所を定期訪問し、区からの最新情報の提供・ケアプラン作成個別相談等を行っている。

② 事業等取り組みについて

《研修関係》

- 六浦CP包括・柳町CP包括共催：六浦東地区民生委員交流会開催
- 区主任ケアマネ部会主催：新任ケアマネジャー研修開催（年3回）
- 区主任ケアマネ部会・区保健師部会共催：介護予防従事者研修会開催
- 区主任ケアマネ部会・金沢ケアマネ倶楽部・金沢区役所共催：三者合同研修開催
- 区主任ケアマネ部会・保健師部会・社会福祉士部会共催：MSWと包括の情報交換会開催
- 区主任ケアマネ部会南部地区共催：南部事例検討会開催（年2回）
- 区主任ケアマネ部会・金沢区薬剤師会共催：薬剤師と介護支援専門員との情報交換会開催
- 区主任ケアマネ部会・金沢区医師会共催：医師と介護支援専門員との情報交換会開催

《その他》

- ・ケアマネジャーからの相談について、出来る限り同行訪問を行い、問題や課題の早期解決に取り組んだ。

③ サービス担当者会議・カンファレンス支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	2	3	1	1	2	1	4	2	0	0	3	2	21
24年度	7	1	4	4	3	7	6	2	0	4	4	1	43
増▲減	▲5	2	▲3	▲3	▲1	▲6	▲2	0	0	▲4	▲1	1	▲22

- ・処遇困難事例ケースに関しては区・担当ケアマネジャーと協働を行う。

エ) 介護予防ケアマネジメント事業

① 介護予防一般高齢者施策（65歳以上のすべての高齢者）への取り組み

介護予防推進事業「65歳からの健康体操」を実施

6月17日 自宅でできる運動講座

10月21日 体操講座

介護予防自主化グループ「やなぎウォーキング」

交流会3月10日（参加者6人）

② 介護予防二次予防事業対象者施策

（要支援・要介護状態となる恐れがある高齢への取り組み）

- ・二次予防事業対象者への支援（基本チェックリスト配布枚数35枚 該当者には個々に電話・対面にて健康状態のチェック、又柳町ケアプラザの自主事業の紹介をした。）
- ・二次予防事業対象者の把握

下記の団体に対して基本チェックリストを配布し状態を確認
 介護予防推進事業「65歳からの健康体操」受講者 瀬戸町内老人会

オ) 介護予防支援事業

① 平成25年度包括支援センター担当件数（給付管理票作成件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	41	46	45	45	45	45	46	46	44	44	43	43	533
24年度	51	50	49	48	49	49	52	53	52	51	46	44	594
増▲減	▲10	▲4	▲4	▲3	▲4	▲4	▲6	▲7	▲8	▲7	▲3	▲1	▲61

※ 包括支援センター担当件数とは、包括支援センターで作成した件数

② 平成25年度包括支援センター委託件数（給付管理票作成件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25年度	54	52	53	55	55	61	61	63	67	67	67	66	654
24年度	42	42	38	40	41	42	45	43	48	50	49	50	530
増▲減	12	12	15	15	14	19	16	20	21	17	22	16	124

※ 委託件数とは、包括支援センター以外の居宅介護支援事業所に委託契約を行い、介護支援専門員が作成した件数。

(3) 居宅介護支援事業

ア) 地域ケアプラザの居宅支援事業所として、困難事例に積極的に対応し、包括と連携しながら利用者・家族への支援を行った。

イ) 予防⇄介護のボーダーライン上の利用者に対し、継続した支援を実施した。

ウ) 2月より非常勤ケアマネを1名増員(平成26年6月1日から常勤予定)。常勤換算2.4名となり、より多くの件数を担当し、地域からの居宅支援の要望に応えられる体制を作った。

エ) 毎月「居宅介護支援会議」を開催した。各ケアマネの困難ケースの把握、対処について検討し、全ての情報の共有化を図った。

オ) 平成25年9月より、柳町通所介護の相談員と月に2回「デイ・居宅会議」を実施。利用者の情報を共有し、よりよい支援を行う事ができるようにした。

居宅事業ケアプラン作成数（年間）

25年度	介護プラン 789	予防プラン 119
24年度	介護プラン 735	予防プラン 138

② 契約者数（平成25年3月31日現在）

	契約者数	内新規契約者数	終了者数
25年度	介護 75、予防 9	介護 28、予防 0	介護 22、予防 3
24年度	介護 63、予防 12	介護 31、予防 3	介護 20、予防 3

③ 金沢区等委託契約による介護認定調査件数（区との契約数は年間 120件）

25年度	115件(含区外3件)
24年度	117件(含区外2件)

（4）指定通所介護事業・指定介護予防通所介護事業

- ア) 利用者の安全を第一に考え見守りを強化し、特に立ち上り時や歩行中の転倒防止に努めた。
- イ) 毎日のプログラムとして、利用者の身体機能の低下を防ぐために、リハビリ体操等を日常的に行うと共に、日常生活に必要な動作を数項目準備し、定期的に身体状況の確認をおこなった。また、希望者に個別機能訓練・運動器機能向上を実施し、身体機能維持と転倒予防に繋げた。
- ウ) レクリエーションの時間には、カラオケ・フラワーアレンジメント・絵手紙・小物の創作活動・麻雀、囲碁・将棋等や個別レクなど提供し充実した時間を過ごして頂いた。
- エ) 入浴では、5月に菖蒲湯・12月に冬至湯（柚子湯）等で季節を感じて頂きながら、のんびりと入浴時間を楽しんで頂いた。毎月第三週は、お楽しみ湯として、様々な入浴剤を使用したり、リラックスできる音楽などをかけて、くつろげる雰囲気づくりでの入浴を提供した。
- オ) 季節の行事では、ひな祭りや七夕、運動会、敬老大会、節分の豆まき等で、認知デイの利用者や保育園の園児、ボランティアと共に充実した楽しいひと時を過ごして頂いた。
- カ) 昼食では、月に一回郷土料理を提供し、日本各地のお料理や大人様ランチ(プレートランチ)を楽しんで頂いたり、お茶菓子では、おやつバイキングを実施した。そば打ち・すし職人による本格的なイベント食も開催し、利用者と一緒にそば打ちの体験もした。
- キ) 開館日数 359日

ク) 介護度別利用状況（延べ利用者数）（平成25年4月～平成26年3月）単位：人

① 指定通所介護事業

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	総数	実施 日数	平均利用 者数/日	最高利用者数/ 日
4月	170	225	198	37	15	645	30	21.5	25
5月	168	227	209	36	26	666	31	21.4	26
6月	174	195	168	27	23	587	30	19.5	24
7月	170	229	141	21	14	575	31	18.5	23
8月	195	190	147	36	13	581	31	18.7	27
9月	208	181	152	32	13	586	30	19.5	25
10月	217	189	141	43	15	605	31	19.5	27
11月	241	184	145	47	18	635	30	21.1	30
12月	205	165	118	46	21	555	28	19.8	28
1月	225	158	108	49	22	562	28	20.0	26
2月	214	154	99	40	18	525	28	18.7	27
3月	237	197	122	50	23	629	31	20.2	25
25年度	2424	2294	1748	464	221	7151	359	19.9	30
24年度	2,058	2,413	2,374	513	339	7697	359	21.4	29
増▲減	366	▲119	▲626	▲49	▲118	▲546	0	▲1.5	1

②指定介護予防通所介護事業

	要支援1	要支援2	総数	実日数	平均利用者数/ 日	最高利用者数/ 日
4月	23	23	46	30	1.5	5
5月	38	25	63	31	2.0	7
6月	40	25	65	30	2.1	8
7月	38	36	74	31	2.3	5
8月	34	46	80	31	2.5	6
9月	33	46	79	30	2.6	5
10月	35	43	78	31	2.5	5
11月	34	53	87	30	2.9	6
12月	31	47	78	28	2.8	6
1月	34	51	85	28	3.0	6
2月	33	40	74	28	2.6	4
3月	45	41	86	31	2.7	4
25年度	418	476	895	359	2.4	8
24年度	443	658	1,101	359	3.0	8
増▲減	▲25	▲182	▲206	0	▲0.6	0

ケ) 介護度別登録者数(延べ登録者数)(平成25年4月~平成26年3月)単位:人

① 指定通所介護事業

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総数
25年度	288	313	212	68	99	980
24年度	274	308	283	65	49	979
増▲減	14	5	▲71	3	50	1

② 指定介護予防通所介護事業

	要支援1	要支援2	合計
25年度	111	72	183
24年度	112	120	232
増▲減	▲1	▲48	▲49

(5) 認知症対応型通所介護 かがやき

- ア) 日々の活動の中でフロア内環境を整えながらサービスの提供を行い、利用者には安心・安全に過ごしてもらった。
また、日中の創作活動にも参加して頂き、様々な物を作って感謝際の時に展示した。
- イ) 園芸活動では野菜やお花を植え成長する過程を楽しみながら、鑑賞し、昼食には皆さんで味わっていただいた。
- ウ) 菖蒲湯・柚子湯など、日本の習慣を取り入れたお風呂や、桜湯・清涼感のあるお湯など、四季の変化を意識したお風呂を提供する事により、季節感を感じていただいた。
- エ) 屋外活動では、利用者の状況により近隣の公園での自然の中で季節を感じたり、初詣を兼ねて神社へ行き、歩行訓練に繋がった
- オ) 夏祭り・運動会では、一般デイの方々や保育園の園児・ボランティアとの交流も持つ事により、多くの方との社会交流の場に繋げる事が出来た。
- カ) 月1回実施している「おやつレクレーション」では皆様と色々な調理器具を使いお菓子や軽食を作った。それぞれの得意分野で活躍していただいた。
- キ) お茶菓子が和菓子の時は お茶の先生をしていた利用者にお抹茶を点ててもらいみなさんに飲んでいただいた。
- ク) 家族会を開催し、家族の思いや悩み・経験談を聞き共有することができ、充実した時間となった。1年間の活動写真をスライドショーで見てください様子を伝えることもできた。
- ケ) 毎月の会議では事例検討会を行い職員間で情報を共有し認知症介護のスキルアップに繋がった。
- コ) 開館日数 359日

介護度別利用状況（延べ利用者数）（平成25年4月～平成26年3月） 単位:人

① 認知症対応型通所介護事業

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	総 数	実施日 数	平均利用者 数/日	最高利用 者数/日
4月	64	104	50	22	39	279	30	9.3	10
5月	47	127	62	18	48	302	31	9.7	10
6月	16	110	67	21	36	250	30	8.3	10
7月	18	112	99	1	22	252	31	8.1	10
8月	21	93	108	10	24	256	31	8.3	10
9月	13	99	80	23	24	239	30	8.0	10
10月	16	117	69	23	19	244	31	7.9	10
11月	3	136	69	23	19	250	30	8.3	10
12月	0	131	65	7	6	209	28	7.5	10
1月	34	130	34	3	12	213	28	7.6	10
2月	14	117	66	6	8	211	28	7.5	10
3月	16	115	77	16	11	235	31	7.6	10
25年度	262	1391	846	173	268	2940	359	8.2	10
24年度	976	936	799	515	255	3,481	359	9.6	10
増▲減	▲714	455	47	▲342	13	▲541	0	▲1.4	0

介護度別利用状況（延べ利用者数）（平成25年4月～平成26年3月） 単位:人

② 介護予防認知症対応型通所介護事業

	要支援1	要支援2	総 数	実日数	平均利用者数/ 日	最高利用者数 /日
4月	0	3	3	30	0.1	1
5月	0	4	4	31	0.1	1
6月	0	5	5	30	0.2	1
7月	0	7	7	31	0.2	1
8月	0	9	9	31	0.3	1
9月	0	7	7	30	0.2	1
10月	0	9	9	31	0.3	1
11月	0	8	8	30	0.3	1
12月	0	7	7	28	0.3	1
1月	0	4	4	28	0.1	1
2月	0	4	4	28	0.1	1
3月	0	5	5	31	0.2	1
25年度	0	69	69	359	0.2	1
24年度	-	-	-	359	-	-
増▲減	0	69	69	0	0.2	1

介護度別登録者数（延べ登録者数）（平成25年4月～平成26年3月） 単位：人

① 認知症対応型通所介護事業

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総数
25年度	26	122	83	34	27	292
24年度	90	86	73	55	28	332
増▲減	▲64	36	10	▲21	▲1	▲40

② 介護予防認知症対応型通所介護事業

	要支援1	要支援2	合計
25年度	0	12	12
24年度	-	-	-
増▲減	0	12	12

(6) 認知症対応型通所介護 「やまゆり」

- ア) 閑静な環境の中、地域の方々の丹精込めた公園の花に囲まれながらラジオ体操やボール投げ等楽しみ、心身の活性化に良い効果もみられる。近隣の寺などへのお散歩は季節の花も楽しめて大変好評だった。ご家族も一緒に参加者が増えている。
- イ) 絵てがみの効果が大きく、自宅でもやりたいと準備される方や曜日に関係なくご本人の希望に随時対応している。皆様とともに育てたやまゆりの庭の季節の花々を題材としている。
- ウ) 室内卓球は 人気があり、女性も男性も昔を思い出し多くの方が参加されている。
- エ) 音楽ボランティア（民謡、ジャズ、コーラス等）色んなジャンルを楽しんで頂いた。氷取沢高校ジャズコンサートに行き、若いエネルギーに感動された利用者もいた。個々の好みを大事に支援した。
- オ) ガーデニングで収穫野菜を昼食に味わって頂いたり、季節の花をご利用者にプレゼントした。
- カ) 常に季節感を感じ、味よし、見た目良しの昼食にはご利用者だけでなく、ケアマネやご家族にも好評だった。
- キ) 開館日数 300日

ク) やまゆり

介護度別利用状況（延べ利用者数）（平成25年6月～平成26年3月） 単位:人

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	総 数	実施日 数	平均利用者 数/日	最高利用 者数/日
4月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月	51	36	43	7	8	145	30	4.8	8
7月	48	24	34	17	32	155	31	5.0	7
8月	49	54	35	19	43	200	31	6.5	9
9月	55	46	47	19	39	206	30	6.9	9
10月	27	91	16	34	37	205	31	6.6	10
11月	24	92	18	26	39	199	30	6.6	10
12月	19	82	48	17	37	203	31	6.5	11
1月	75	62	39	4	35	215	28	7.6	12
2月	11	92	50	23	33	209	27	7.7	12
3月	24	110	46	4	38	222	31	7.1	11
25年度	383	689	376	170	341	1959	300	6.5	12
24年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-
増▲減	-	-	-	-	-	-	-	-	-

ケ) 介護度別登録者数（延べ登録者数）（平成25年6月～平成26年3月） 単位：人

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総 数
25年度	30	67	35	21	21	174
24年度	-	-	-	-	-	-
増▲減	-	-	-	-	-	-

(7) 平成25年度事業活動収支決算概要

①通所介護（一般）事業活動収支総括表

	25年度	備考
介護保険事業収入	78,791,553	年間1日あたり平均利用者数 介護 19.9・予防 2.4
その他収入	0	
計(A)	78,791,553	
人件費	53,705,701	
事業費	12,822,631	
事務費	16,663,648	
その他支出	1,985,001	・減価償却費 6,815,008 ・国庫補助金等特別積立金取り崩し額 -4,830,007
計(B)	85,176,981	
収支差額	-6,385,428	
サービス活動外収益	1,005,687	
サービス活動外費用	281,520	
サービス活動外増減差額	724,167	
経常増減差額	-5,661,261	

②通所介護（認知症対応型）事業収支総括表

	25年度	備考
介護保険事業収入	43,613,300	年間1日あたり平均利用者数 介護 8.2・予防 0.2
その他収入	0	
計(A)	43,613,300	
人件費	29,886,963	
事業費	3,936,642	
事務費	4,482,572	
その他支出	661,668	・減価償却費 2,271,675 ・国庫補助金等特別積立金取り崩し額 -1,610,007
計(B)	38,967,845	
収支差額	4,645,455	
サービス活動外収益	271,512	
サービス活動外費用	93,840	
サービス活動外増減差額	177,672	
経常増減差額	4,823,127	

③通所介護（認知症対応型・やまゆり）事業活動収支総括表

	25年度(25.6~26.3)	備考
介護保険事業収入	28,121,702	年間1日あたり平均利用者数 介護 6.5
その他収入	109,000	
計(A)	28,230,702	
人件費	19,260,483	
事業費	10,544,651	
事務費	3,835,028	
その他支出	252,419	
計(B)	33,892,581	
収支差額	-5,661,879	
サービス活動外収益	495,122	
サービス活動外費用	0	
サービス活動外増減差額	495,122	
経常増減差額	-5,166,757	

④居宅介護支援事業活動収支総括表

	25年度	備考
介護保険事業収入	10,269,141	年間プラン件数 介護 789・予防 119
その他収入	0	
計(A)	10,269,141	
人件費	8,591,570	2月から常勤換算 2.4人体制
事業費	0	
事務費	638,556	
その他支出	136,477	
計(B)	9,366,603	
収支差額	902,538	
サービス活動外収益	14,791	
サービス活動外費用	0	
サービス活動外増減差額	14,791	
経常増減差額	917,329	

(別紙) 地域活動・交流事業

ア) 支えあい連絡会の開催 (平成25年4月～26年3月)

	開催数	参加人数	テーマ・内容詳細等
平成25年度	2	25	北欧の介護福祉事情、気仙沼傾聴ボランティアについて
平成24年度	2	39	ボランティアネットワークの依頼内容、孤独死について

イ) 広報紙及びチラシの発行 (平成24年4月～25年3月)

	広報紙	チラシ	配布先
平成25年度	4回	51回	来館者・各町内会・関連機関に配布
平成24年度	5回	49回	

ウ) 貸館利用状況 (平成25年4月～26年3月)

件数 (単位: 件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H25 合計	H24 合計	前 年 比
多目的	午 前	22	23	25	24	23	21	21	26	23	24	20	24	722	683	39
	午後1	17	24	22	20	19	21	24	20	20	22	23	22			
	午後2	15	17	15	13	15	14	17	18	15	18	16	18			
	夜 間	0	1	0	1	1	0	0	2	2	0	0	1			
調理室	午 前	5	3	7	3	5	2	6	5	8	3	5	6	195	195	0
	午後1	5	3	7	4	6	5	7	6	11	6	6	7			
	午後2	4	4	5	4	6	4	5	6	10	5	2	6			
	夜 間	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1			
ホフ	午 前	3	6	5	9	8	5	3	6	9	6	5	11	364	348	16
	午後1	9	13	9	12	16	16	13	15	15	13	16	17			
	午後2	8	8	6	10	15	14	12	10	14	9	7	12			
	夜 間	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
地域	午 前	4	2	7	4	5	2	4	5	7	3	3	3	286	284	2
	午後1	6	4	14	8	10	7	7	12	14	9	10	10			
	午後2	5	5	12	5	7	5	6	8	12	6	4	6			
	夜 間	4	4	4	4	5	4	4	4	2	4	3	3			
合 計		109	117	138	122	141	120	129	143	163	128	120	147	1567	1493	57

稼働率

稼働率 (単位：%)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H25 合計	H24 合計	前年 比
多目的	午前	76	77	86	80	77	72	70	90	85	89	74	80	80	60	20
	午後1	59	80	76	67	63	72	80	69	74	81	85	73	73	57	16
	午後2	52	50	52	43	50	48	57	62	56	67	59	60	55	49	6
	夜間	0	4	0	4	4	0	0	8	9	0	0	4	3	1	2
調理室	午前	17	10	24	10	17	7	20	17	30	11	19	20	17	17	0
	午後1	17	10	24	13	20	17	23	21	41	22	22	23	21	24	-3
	午後2	14	13	17	13	20	14	17	21	37	19	7	20	18	15	3
	夜間	0	0	0	4	0	0	0	0	5	0	0	4	1	0	1
ボラ	午前	10	20	17	30	27	17	10	21	33	22	19	37	22	16	6
	午後1	31	43	31	40	53	55	43	52	56	48	59	57	47	41	6
	午後2	28	27	21	33	50	48	40	34	52	33	26	40	36	34	2
	夜間	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
地域	午前	14	7	24	13	17	7	13	17	26	11	11	10	14	25	-11
	午後1	21	13	48	27	33	24	23	41	52	33	37	33	32	28	4
	午後2	17	17	41	17	23	17	20	28	44	22	15	20	23	16	7
	夜間	16	15	17	15	19	17	15	16	9	17	13	12	15	16	-1

※ 多目的：多目的ホール ボラ：ボランティアルーム 地域：地域ケアルーム

利用人数 (単位人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H25 合計	H24 合計	前年 比
		704	877	843	911	881	847	801	1089	974	876	764	979	10546	10756

工) 自主事業実施状況

(平成25年4月~26年3月)

		開催数	延参加者数	内 容
高 齢 者 支 援	H25	17	154	パソコンにタッチ、フラワーアレンジメント、健康体操
	H24	34	474	体力向上プログラム、楽々パソコン、フラワーアレンジメント
	前年比	-17	-320	
子 育 て 支 援	H25	13	242	あかちゃんといっしょ、親子体操
	H24	14	405	あかちゃんといっしょ、3B体操
	前年比	-1	-163	
障 がい 児 者 支 援	H25	13	98	おひさま広場、サマーフレンド
	H24	3	30	サマーフレンド 障がい児者余暇支援
	前年比	10	68	
学 童 向 け	H24	11	123	レゴパーク、クリスマスお菓子作り
	H24	0	0	
	前年比	11	123	
異 世 代 交 流 (小学生・高齢者)	H25	2	40	木工クラフト
	H24	2	47	木工クラフト、親子で冷やしラーメン
	前年比	0	-7	
男 性 向 け	H25	3	25	男ランチ
	H24	4	36	男ランチ
	前年比	-1	-11	
健 康 作 り	H25	4	23	てくてく金沢、やなぎウォーキング
	H24	0	0	
	前年比	4	23	
福祉チャレンジ事業 ・車椅子介助体験 ・視覚障害者誘導介助体験 ・手話体験 ・点字体験	H25	0	0	
	H24	1	84	瀬ヶ崎小
	前年比	-1	-84	
福祉体験授業	H25	0	0	
	H24	0	0	
	前年比	0	0	
福祉保健、健康、暮らし	H25	18	274	医療講演会、車いす貸出、 ケアプラザ講演会、 ちょこっと相談
	H24	32	95	医療講演会、ちょこっと相談、車椅子貸し出し
	前年比	-14	179	
ボランティア育成	H25	1	15	ボランティア感謝会
	H24	2	28	そばと朗読、ボランティア講座
	前年比	-1	-13	
地 域 交 流	H25	17	291	ほっとランチ、輪飾り作り、ケアプラザ感謝会、介護者の集い
	H24	26	266	介護者のつどい、輪飾り作り
	前年比	-9	25	
出 張 講 座 等	H25	5	166	出張講座
	H24	4	106	出張講座
	前年比	1	60	
サ ロ ン	H25	23	623	おしゃべりカフェ、ほっとすペース
	H24	24	669	お茶会(月)ほっとすペース(食事会)
	前年比	-1	-46	
合 計	H25	127	2074	
	H24	146	2240	
	前年比	-19	-166	

※共催及び後援事業を含む

資金収支計算書
(自)平成25年 4月 1日(至)平成26年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	362,321,586	357,132,093	5,189,493	
	障害福祉サービス等事業収入	843,159,034	839,633,602	3,525,432	
	借入金利息補助金収入	375,360	375,360	0	
	経常経費寄附金収入	459,000	554,650	△ 95,650	
	受取利息配当金収入	78,522	92,559	△ 14,037	
	その他の収入	22,206,246	21,169,445	1,036,801	
	事業活動収入計(1)	1,228,599,748	1,218,957,709	9,642,039	
	支出				
	人件費支出	924,101,982	911,863,331	12,238,651	
事業費支出	190,164,050	182,423,983	7,740,067		
事務費支出	151,736,830	146,317,183	5,419,647		
支払利息支出	375,360	375,360	0		
事業活動支出計(2)	1,266,378,222	1,240,979,857	25,398,365		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△ 37,778,474	△ 22,022,148	△ 15,756,326		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	30,617,763	30,771,563	△ 153,800	
	固定資産売却収入	428,000	1,230,650	△ 802,650	
	施設整備等収入計(4)	31,045,763	32,002,213	△ 956,450	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	5,780,000	5,780,000	0	
固定資産取得支出	50,856,263	49,660,713	1,195,550		
施設整備等支出計(5)	56,636,263	55,440,713	1,195,550		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 25,590,500	△ 23,438,500	△ 2,152,000		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	4,106,690	4,997,862	△ 891,172	
	その他の活動による収入		55,788,947	△ 55,788,947	
	その他の活動収入計(7)	4,106,690	60,786,809	△ 56,680,119	
	支出				
	積立資産支出	10,013,000	9,720,532	292,468	
	その他の活動による支出	0	55,788,947	△ 55,788,947	
	その他の活動支出計(8)	10,013,000	65,509,479	△ 55,496,479	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 5,906,310	△ 4,722,670	△ 1,183,640		
予備費支出(10)		—			
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 69,275,284	△ 50,183,318	△ 19,091,966		
前期末支払資金残高(12)	486,891,306	486,891,306	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)	417,616,022	436,707,988	△ 19,091,966		

事業活動計算書
(自)平成25年 4月 1日(至)平成26年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	357,132,093		357,132,093
	障害福祉サービス等事業収益	839,633,602		839,633,602
	経常経費寄附金収益	554,650		554,650
	サービス活動収益計(1)	1,197,320,345		1,197,320,345
	費用			
	人件費	906,865,971		906,865,971
事業費	182,423,983		182,423,983	
事務費	146,317,183		146,317,183	
減価償却費	61,524,781		61,524,781	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 49,870,535		△ 49,870,535	
サービス活動費用計(2)	1,247,261,383		1,247,261,383	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 49,941,038		△ 49,941,038	
サービス活動外増減の部	収益			
	借入金利息補助金収益	375,360		375,360
	受取利息配当金収益	92,559		92,559
	その他のサービス活動外収益	21,169,445		21,169,445
	サービス活動外収益計(4)	21,637,364		21,637,364
費用				
支払利息	375,360		375,360	
サービス活動外費用計(5)	375,360		375,360	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	21,262,004		21,262,004	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 28,679,034		△ 28,679,034	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	30,771,563		30,771,563
	固定資産売却益	399,748		399,748
	その他の特別収益	55,788,947		55,788,947
	特別収益計(8)	86,960,258		86,960,258
	費用			
	固定資産売却損・処分損	1,056,434		1,056,434
	国庫補助金等特別積立金積立額	30,371,563		30,371,563
	その他の特別損失	115,534,753		115,534,753
	特別費用計(9)	146,962,750		146,962,750
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 60,002,492		△ 60,002,492	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 88,681,526		△ 88,681,526	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	587,274,853	587,274,853	0
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	498,593,327	587,274,853	△ 88,681,526
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)			
	その他の積立金積立額(16)	9,720,030		9,720,030
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	488,873,297	587,274,853	△ 98,401,556

貸借対照表
平成26年 3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	516,196,762	559,754,287	△ 43,557,525	流動負債	85,268,774	72,862,981	12,405,793
現金預金	319,279,002	385,654,152	△ 66,375,150	事業未払金	61,780,282	49,526,886	12,253,396
事業未収金	165,517,985	137,104,019	28,413,966	1年以内返済予定設備資金借入金	5,780,000		5,780,000
未収金	656,755	16,321,098	△ 15,664,343	預り金	4,623,777	5,758,876	△ 1,135,099
未収補助金	3,500,000		3,500,000	職員預り金	9,386,446	14,816,714	△ 5,430,268
立替金	12,396,007	7,504,283	4,891,724	前受金	1,782,500	1,848,778	△ 66,278
前払金	0	13,140,735	△ 13,140,735	仮受金	1,915,769	911,727	1,004,042
前払費用	14,817,013		14,817,013				
その他の流動資産	30,000	30,000	0				
固定資産	1,515,782,958	1,524,080,292	△ 8,297,334	固定負債	121,288,805	128,183,735	△ 6,894,930
基本財産	1,292,077,518	1,309,012,720	△ 16,935,202	設備資金借入金	74,700,000	86,260,000	△ 11,560,000
建物	1,155,030,704	1,193,773,241	△ 38,742,537	退職給付引当金	46,588,805	41,923,735	4,665,070
建物附属設備	137,046,814	115,239,479	21,807,335	負債の部合計	206,557,579	201,046,716	5,510,863
その他の固定資産	223,705,440	215,067,572	8,637,868	純資産の部			
建物	2,979,917	3,071,823	△ 91,906	基本金	58,506,000	58,506,000	0
建物附属設備	13,712,067	16,256,641	△ 2,544,574	第1号基本金	58,506,000	58,506,000	0
構築物	6,533,457	7,161,100	△ 627,643	国庫補助金等特別積立金	1,167,464,703	1,127,217,869	40,246,834
車輛運搬具	1,715,837	2,524,967	△ 809,130	その他の積立金	110,578,141	109,789,141	789,000
器具及び備品	21,629,989	20,034,463	1,595,526	移行時特別積立金	30,000,000	30,000,000	0
権利	13,521,269	11,423,625	2,097,644	修繕積立金	80,578,141	79,789,141	789,000
ソフトウェア	6,445,958	2,882,077	3,563,881	次期繰越活動増減差額	488,873,297	587,274,853	△ 98,401,556
退職給付引当資産	46,588,805	41,923,735	4,665,070	(うち当期活動増減差額)	△ 88,681,526		△ 88,681,526
移行時特別積立資産	30,000,000	30,000,000	0				
修繕積立資産	80,578,141	79,789,141	789,000	純資産の部合計	1,825,422,141	1,882,787,863	△ 57,365,722
資産の部合計	2,031,979,720	2,083,834,579	△ 51,854,859	負債及び純資産の部合計	2,031,979,720	2,083,834,579	△ 51,854,859

資金収支内訳表
(自)平成25年 4月 1日(至)平成26年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計
事業活動による収支	収入					
	介護保険事業収入	357,132,093		357,132,093		357,132,093
	障害福祉サービス等事業収入	760,173,931	79,459,671	839,633,602		839,633,602
	借入金利息補助金収入	375,360		375,360		375,360
	経常経費寄附金収入	501,850	52,800	554,650		554,650
	受取利息配当金収入	92,559		92,559		92,559
	その他の収入	20,476,666	692,779	21,169,445		21,169,445
	事業活動収入計(1)	1,138,752,459	80,205,250	1,218,957,709		1,218,957,709
	支出					
	人件費支出	845,626,806	66,236,525	911,863,331		911,863,331
事業費支出	178,563,583	3,860,400	182,423,983		182,423,983	
事務費支出	136,642,398	9,674,785	146,317,183		146,317,183	
支払利息支出	375,360		375,360		375,360	
事業活動支出計(2)	1,161,208,147	79,771,710	1,240,979,857		1,240,979,857	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△ 22,455,688	433,540	△ 22,022,148		△ 22,022,148	
施設整備等による収支	収入					
	施設整備等補助金収入	30,771,563		30,771,563		30,771,563
	固定資産売却収入	1,230,650		1,230,650		1,230,650
	施設整備等収入計(4)	32,002,213		32,002,213		32,002,213
	支出					
	設備資金借入金元金償還支出	5,780,000		5,780,000		5,780,000
	固定資産取得支出	49,660,713		49,660,713		49,660,713
	施設整備等支出計(5)	55,440,713		55,440,713		55,440,713
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 23,438,500		△ 23,438,500		△ 23,438,500
	その他の活動による収支	収入				
積立資産取崩収入		4,515,032	482,830	4,997,862		4,997,862
その他の活動による収入		55,788,947		55,788,947		55,788,947
その他の活動収入計(7)		60,303,979	482,830	60,786,809		60,786,809
支出						
積立資産支出		8,804,162	916,370	9,720,532		9,720,532
その他の活動による支出		55,788,947		55,788,947		55,788,947
その他の活動支出計(8)		64,593,109	916,370	65,509,479		65,509,479
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 4,289,130	△ 433,540	△ 4,722,670		△ 4,722,670
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)		△ 50,183,318	0	△ 50,183,318		△ 50,183,318
前期末支払資金残高(11)	486,891,306	0	486,891,306		486,891,306	
当期末支払資金残高(10)+(11)	436,707,988	0	436,707,988		436,707,988	

事業活動内訳表
(自)平成25年 4月 1日(至)平成26年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計
サービス 収益	介護保険事業収益	357,132,093		357,132,093		357,132,093
	障害福祉サービス等事業収益	760,173,931	79,459,671	839,633,602		839,633,602
	経常経費寄附金収益	501,850	52,800	554,650		554,650
	サービス活動収益計(1)	1,117,807,874	79,512,471	1,197,320,345		1,197,320,345
活動 増減 の部	費用					
	人件費	841,112,276	65,753,695	906,865,971		906,865,971
	事業費	178,563,583	3,860,400	182,423,983		182,423,983
	事務費	136,642,398	9,674,785	146,317,183		146,317,183
	減価償却費	61,524,781		61,524,781		61,524,781
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 49,870,535		△ 49,870,535		△ 49,870,535
	サービス活動費用計(2)	1,167,972,503	79,288,880	1,247,261,383		1,247,261,383
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 50,164,629	223,591	△ 49,941,038		△ 49,941,038
サービス 活動 外 増減 の部	収益					
	借入金利息補助金収益	375,360		375,360		375,360
	受取利息配当金収益	92,559		92,559		92,559
	その他のサービス活動外収益	20,476,666	692,779	21,169,445		21,169,445
		サービス活動外収益計(4)	20,944,585	692,779	21,637,364	
	費用					
	支払利息	375,360		375,360		375,360
	サービス活動外費用計(5)	375,360		375,360		375,360
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	20,569,225	692,779	21,262,004		21,262,004
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 29,595,404	916,370	△ 28,679,034		△ 28,679,034
特別 増減 の部	収益					
	施設整備等補助金収益	30,771,563		30,771,563		30,771,563
	固定資産売却益	399,748		399,748		399,748
	その他の特別収益	55,788,947		55,788,947		55,788,947
		特別収益計(8)	86,960,258		86,960,258	
	費用					
	固定資産売却損・処分損	1,056,434		1,056,434		1,056,434
	国庫補助金等特別積立金積立額	30,371,563		30,371,563		30,371,563
	その他の特別損失	115,534,753		115,534,753		115,534,753
	特別費用計(9)	146,962,750		146,962,750		146,962,750
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 60,002,492		△ 60,002,492		△ 60,002,492
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 89,597,896	916,370	△ 88,681,526		△ 88,681,526
繰 越 活 動 増 減 差 額 の 部	前期繰越活動増減差額(12)	587,274,853		587,274,853		587,274,853
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	497,676,957	916,370	498,593,327		498,593,327
	基本金取崩額(14)					
	その他の積立金取崩額(15)					
	その他の積立金積立額(16)	8,803,660	916,370	9,720,030		9,720,030
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	488,873,297	0	488,873,297		488,873,297

貸借対照表内訳表
平成26年 3月31日現在

(単位:円)

勘定科目	社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計
流動資産	502,966,076	13,230,686	516,196,762	0	516,196,762
現金預金	306,710,076	12,568,926	319,279,002		319,279,002
事業未収金	165,517,985		165,517,985		165,517,985
未収金	0	656,755	656,755		656,755
未収補助金	3,500,000		3,500,000		3,500,000
立替金	12,391,002	5,005	12,396,007		12,396,007
前払費用	14,817,013		14,817,013		14,817,013
その他の流動資産	30,000		30,000		30,000
固定資産	1,509,592,458	6,190,500	1,515,782,958		1,515,782,958
基本財産	1,292,077,518		1,292,077,518		1,292,077,518
建物	1,155,030,704		1,155,030,704		1,155,030,704
建物附属設備	137,046,814		137,046,814		137,046,814
その他の固定資産	217,514,940	6,190,500	223,705,440		223,705,440
建物	2,979,917		2,979,917		2,979,917
建物附属設備	13,712,067		13,712,067		13,712,067
構築物	6,533,457		6,533,457		6,533,457
車輛運搬具	1,715,837		1,715,837		1,715,837
器具及び備品	21,629,989		21,629,989		21,629,989
権利	13,521,269		13,521,269		13,521,269
ソフトウェア	6,445,958		6,445,958		6,445,958
退職給付引当資産	40,398,305	6,190,500	46,588,805		46,588,805
移行時特別積立資産	30,000,000		30,000,000		30,000,000
修繕積立資産	80,578,141		80,578,141		80,578,141
資産の部合計	2,012,558,534	19,421,186	2,031,979,720	0	2,031,979,720
流動負債	72,038,088	13,230,686	85,268,774	0	85,268,774
事業未払金	48,550,164	13,230,118	61,780,282		61,780,282
1年以内返済予定設備資金借入金	5,780,000		5,780,000		5,780,000
預り金	4,623,777		4,623,777		4,623,777
職員預り金	9,385,878	568	9,386,446		9,386,446
前受金	1,782,500		1,782,500		1,782,500
仮受金	1,915,769	0	1,915,769		1,915,769
固定負債	115,098,305	6,190,500	121,288,805		121,288,805
設備資金借入金	74,700,000		74,700,000		74,700,000
退職給付引当金	40,398,305	6,190,500	46,588,805		46,588,805
負債の部合計	187,136,393	19,421,186	206,557,579	0	206,557,579
基本金	58,506,000		58,506,000		58,506,000
第1号基本金	58,506,000		58,506,000		58,506,000
国庫補助金等特別積立金	1,167,464,703		1,167,464,703		1,167,464,703
その他の積立金	110,578,141		110,578,141		110,578,141
移行時特別積立金	30,000,000		30,000,000		30,000,000
修繕積立金	80,578,141		80,578,141		80,578,141
次期繰越活動増減差額	488,873,297	0	488,873,297		488,873,297
(うち当期活動増減差額)	△ 89,597,896	916,370	△ 88,681,526		△ 88,681,526
純資産の部合計	1,825,422,141	0	1,825,422,141		1,825,422,141
負債及び純資産の部合計	2,012,558,534	19,421,186	2,031,979,720	0	2,031,979,720

財産目録
平成26年 3月31日現在

(単位:円)

資産・負債の内訳	金額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	319,279,002
現金	882,129
普通預金	318,396,873
事業未収金	165,517,985
未収金	656,755
未収補助金	3,500,000
灯 横浜市設置費補助金	
立替金	12,396,007
前払費用	14,817,013
その他の流動資産	30,000
JCBギフト券	
流動資産合計	516,196,762
2 固定資産	
(1) 基本財産	
建物	1,155,030,704
建物附属設備	137,046,814
基本財産合計	1,292,077,518
(2) その他の固定資産	
建物	2,979,917
建物附属設備	13,712,067
構築物	6,533,457
車輛運搬具	1,715,837
器具及び備品	21,629,989
権利	13,521,269
ソフトウェア	6,445,958
退職給付引当資産	46,588,805
移行時特別積立資産	30,000,000
修繕積立資産	80,578,141
その他の固定資産合計	223,705,440
固定資産合計	1,515,782,958
資産合計	2,031,979,720
II 負債の部	
1 流動負債	
事業未払金	61,780,282
1年以内返済予定設備資金借入金	5,780,000
預り金	4,623,777
職員預り金	9,386,446
前受金	1,782,500
仮受金	1,915,769
流動負債合計	85,268,774
2 固定負債	
設備資金借入金	74,700,000
退職給付引当金	46,588,805
固定負債合計	121,288,805
負債合計	206,557,579
差引純資産	1,825,422,141